

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県大野市

自治体名： 福井県大野市

担当課名： 教育委員会教育総務課

電話番号： 0779-66-1111

1.自治体の基本情報

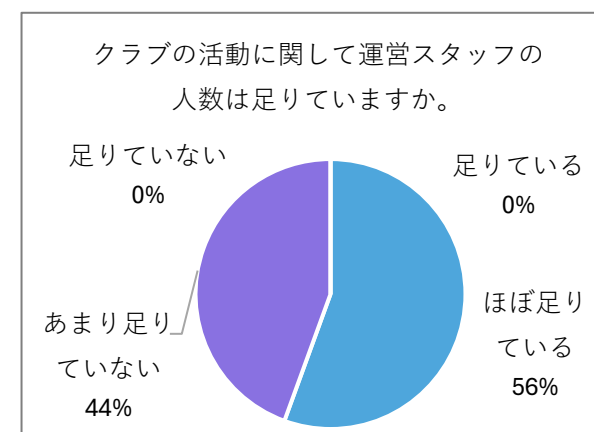
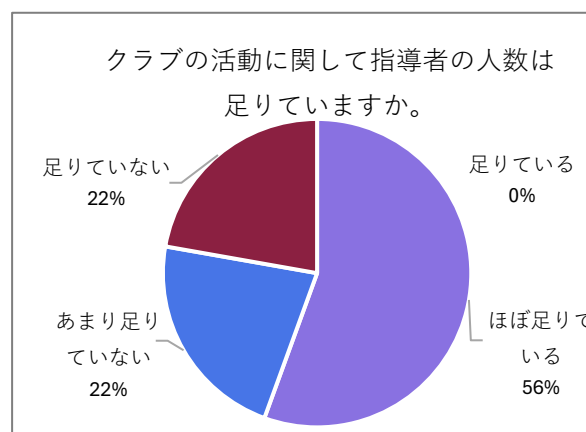
基本情報

面積	872.43km ²
人口	29,209人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	703人
部活動数 (運動部活動のみ)	15部活
地域クラブ活動数	10クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

大野市では令和6年度に、中学校5校を2校に再編した。休日の部活動についても同じタイミングでの地域移行完了を目指し、取り組みを段階的に進めてきた。令和4年度から、サッカー・軟式野球・バスケットボールの3競技で地域移行に向けた実証を開始し、令和6年度には、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技の5競技において休日の部活動を地域クラブへ移行し、休日に活動している常設部活動における地域移行が完了した。

令和7年度には新たに男子バレーボールの受皿団体が設立され、環境の整備がさらに進展した。一方で、3年生の引退によって試合に必要な人数を確保できないクラブが生じており、生徒数不足が活動の継続や大会参加に直結する課題となっている。また指導者や運営スタッフが不足しているクラブが全体の約半数を占め、生徒数が不足しているクラブも大半にのぼる等、人的資源の確保がクラブ運営の不安定要因となっている。さらに、指導者の高齢化や若手指導者の確保の難しさが指摘されている。加えて、屋外競技を中心に冬季の練習場所が不足しており、積雪期には体育館の確保が課題となっている。このように、大野市の地域クラブは受皿整備が進んだ一方で、人的・環境的・運営面の課題が複合的に存在しており、安定的なクラブ運営を支えるための基盤強化が求められている。

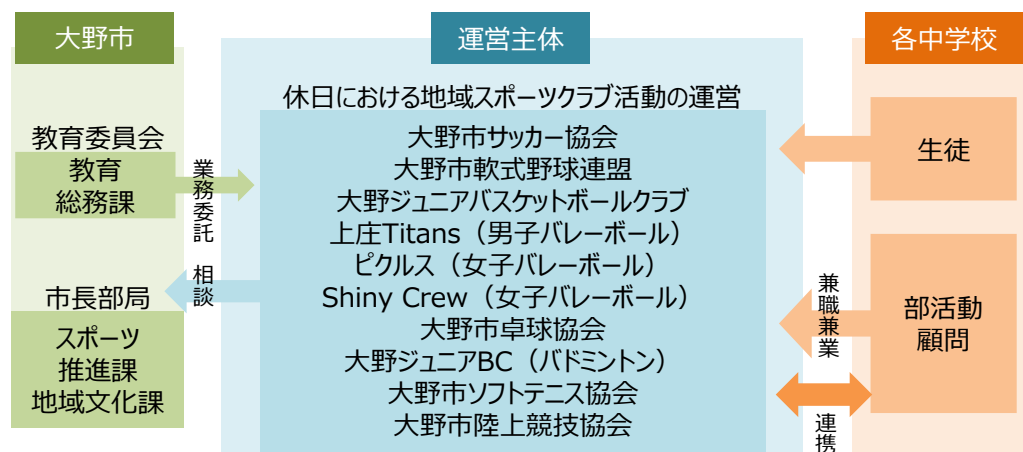


出典：令和7年休日部活動の地域移行に関するアンケート（地域クラブ）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育総務課）

- ・部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・（コーディネーター）学校・各地域クラブ・関係団体との調整・連絡

◎市長部局（スポーツ推進課）

- ・中学生の地域スポーツ活動の環境整備

年間の事業スケジュール

令和7年4月	・ サッカー、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上の地域クラブ活動の実施 ・ 中学1年生に参加できる地域クラブの周知
令和7年5月	・ 第1回大野市部活動地域移行検討委員会の開催 ・ スクールバス利用の試行を開始
令和7年7月	・ 地域クラブの施設使用料免除開始
令和7年8月	・ 熱中症対策の取組を実施 ・ トラブル時のフロー図の周知
令和7年12月	・ 中学1・2年生とその保護者へのアンケート（内容：休日部活動の地域移行）
令和8年2月	・ 第2回大野市部活動地域移行検討委員会の開催 ・ 小学6年生に参加できる地域クラブの周知

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		10クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（および移行された部活動数）	10クラブ（15部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	51人	全体の運営スタッフ数	47人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
Axis大野 ジュニアバス ケットボール クラブ	任意団体	バスケット ボール	・平日 3回 ・休日 1回	平日 19:30～21:00 18:30～20:00 休日 8:30～11:00	1年 18人 2年 10人 3年 13人	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	8人	1人	月額 3,500円 (週4回) 2,500円 (週2回)	中体連： 部活動 その他：地 域クラブ
Shiny Crew	任意団体	バレー ボール	・平日 2回 ・休日 1回	平日 19:00～21:00 休日 9:00～12:00	1年 18人 2年 10人 3年 13人	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	2人	4人	3,000円 /月額	地域クラブ
大野ソフトテ ニスクラブ	競技団体	ソフトテ ニス	・休日 1回	9:00～12:00	1年 13人 2年 6人	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	6人	1人	1,000円 /月額	地域クラブ

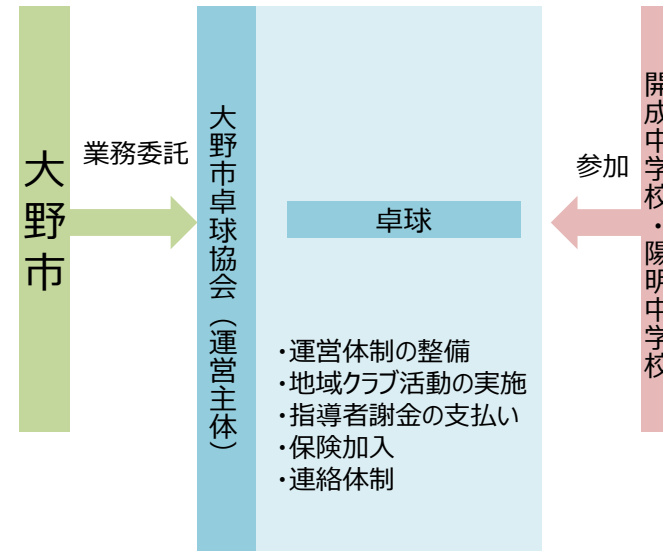
2.実証内容と成果

主な取組例

●大野クラブジュニア 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	大野市卓球協会
期間と日数	月4回程度
指導者の主な属性	社会人、部活動支援員
活動場所	エキサイト広場 小アリーナ
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等 (年額)	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年 1,200円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●指導者・運営スタッフ 4名

役割：競技の技術指導を行う。またクラブの運営を担当する。

※運営には、このほか大野市卓球協会員や保護者の協力を得ることがある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 関係団体との連携
部活動地域移行検討委員会において、各団体や学校、PTAの代表やスポーツ協会・文化協会と意見交換を行いながら、休日部活動の地域移行に取組んだ。
- 総括コーディネーターが各団体との調整を行う
総括コーディネーターが、各地域クラブや学校、その他の関係団体との連絡調整を行った。

取組の成果

- 熱中症対策のための熱中症計の共同購入や、夏休み中の午前中の練習を通常より早い時間から開始可能にする等、各地域クラブからの意見や要望を取り入れることができた。また、公式大会参加時の給食の取り扱い等、学校や地域クラブ双方の課題を解消することができた。
- 中体連大会への地域クラブからの参加に向けた取組のサポート等を行い、休日部活動の地域移行を推進することができた。

今後の取組における課題

- スクールバスの発着所として公共施設を利用する場合の利用確認が事前に行われておらず、申請許可後にイベントや工事等により利用できないことが発覚したため、施設利用者に確認を取る等の連携が必要である。
- これまでは全ての地域クラブの代表を委員として委嘱していたところ、来年度から開催する推進委員会では、一部の地域クラブの代表だけを委嘱する予定のため、多くの地域クラブから現状や課題、意見を聞き取る工夫が必要である。

課題への対応方針

- スクールバスの発着所として公共施設を使用する場合に、施設管理者への確認を必須とするよう利用の手引きを修正し、周知を徹底する。
- 推進委員会とは別に、全ての地域クラブが集まっての意見交換会の開催や、団体に対してアンケート調査を行う等、随時各地域クラブの状況や課題の把握を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

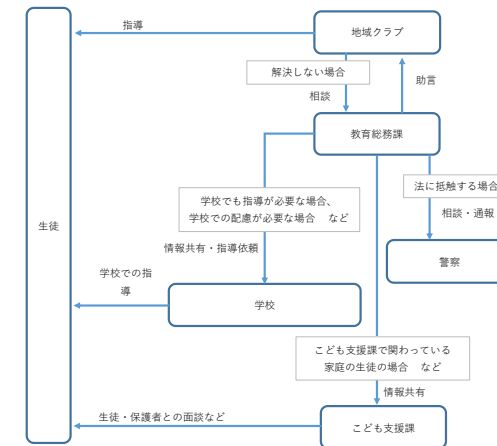
コーディネーターの具体的な動きの実績

- 地域クラブからの中体連大会参加を希望する地域クラブからの問い合わせがあり、県中体連へ確認を取ったり、申請方法の案内を行ったりする等のサポートを行った。
- 新たに活動を始めた地域クラブの視察を行い、活動状況の確認や課題についての確認を行った。
- 市内で活動する、地域移行していないクラブやスポーツ教室等の活動状況の聞き取りを行った。

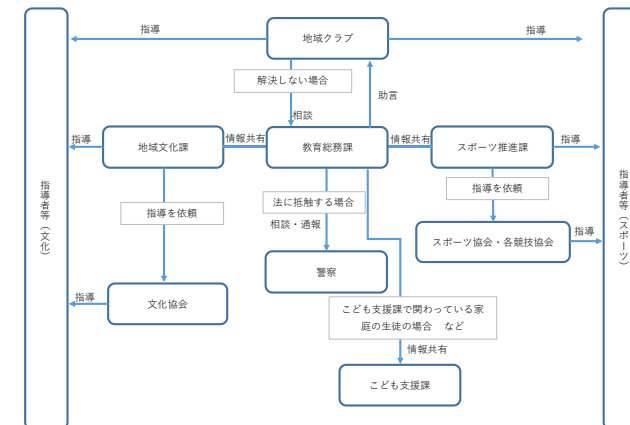
地域クラブ活動におけるトラブル発生時の対応方針

- 地域クラブにおけるトラブル発生時のフロー図（右記）を作成した。トラブルとは主に、子ども同士のいじめ等のトラブルと、子どもと大人の間のパワハラ等のトラブルを想定した2種類を作成し、周知した。
- 基本的には地域クラブ内での解消を図るものの、解消されない場合には教育総務課に相談いただき、必要に応じて関係機関（スポーツ推進課、子ども支援課、学校、警察、スポーツ協会等）へ相談を行っていくこととした。

○ 子ども同士のトラブルの場合



○ 指導者等（大人）と子どものトラブルの場合



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 大野市スポーツ指導者資格取得補助金制度を活用し、指導者の資格取得を促した。
- 福井県が設置した人材バンクを周知し、活用を促した。
- 地域クラブの中には、小学生対象のチームやスポーツ少年団と同一の指導者が関与し、連携した指導を行っているケースがある。また、部活動指導員が一貫して指導に当たっているクラブがある。

取組の成果

- 大野市スポーツ指導者資格取得補助金制度を活用し、1名が指導者の資格を取得した。
- 指導者が小学生世代から中学生まで継続して関与することで、指導方針や育成段階に一貫性が生まれた。また、同じ指導者が平日の部活動と休日の地域クラブ活動の指導を行うことで、平日と休日に一貫性のある活動を行うことができた。

今後の取組における課題

- 指導者や運営スタッフが不足しているクラブが全体の約半数を占め、生徒数が不足しているクラブも大半にのぼる等、人的資源の確保が課題となっている。また指導者の高齢化が進んでいるクラブもあり、若手指導者の確保も課題である。

課題への対応方針

- 学校・地域団体・競技団体と連携した人材発掘・育成を進める必要がある。部活動指導員や部活動顧問との兼務・連携を促進するとともに、大学生や若手社会人の参画を推進し、若手指導者の育成につなげる。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 福井県が設置した人材バンクを周知し、活用を促した。
- 教員の兼職兼業により、指導者の確保を促した。

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 大野市スポーツ指導者資格取得補助金制度を活用し、地域クラブに関わる指導者の資格取得を促進した。この制度では、定められた資格取得のための経費のうち、講習会等に係る受講料、テキスト等の購入費を補助している。今年度は、制度を活用して1名が指導者資格を取得した。

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 陸上部、卓球部、ソフトテニス部では部活動指導員が部活動と地域クラブ双方の指導を行っており、また野球部、陸上部では部活動顧問が兼職兼業で地域クラブでも指導を行っている。
これらの部では平日・休日を通して一貫した指導が行われており、生徒の特性や成長段階を踏まえた継続的な指導が可能となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 検討委員会の場において、市、各競技団体・地域クラブ、大野市スポーツ協会、学校と、部活動の地域移行に関する課題や対応方針について意見交換を行いながら検討を進めた。
- 大野市が保有するスクールバスを活用し、県内への遠征等における移動手段を確保することで、生徒の移動を支援した。

取組の成果

- 各団体が抱える課題を丁寧に吸い上げるとともに、関係者間で共有し、対応策の検討を行うことで、具体的な解決や改善につなげることができた。
- 各地域クラブの遠征先への移動手段を確保したことにより、送迎を行う保護者の負担やバス借上げに伴う費用負担の軽減を図り、生徒が安心して大会や練習試合に参加できる環境を整えることができた。

今後の取組における課題

- 利用回数の増加や、大会以外での目的外使用の拡大、さらには県外移動への適用を求める声が多く寄せられている。

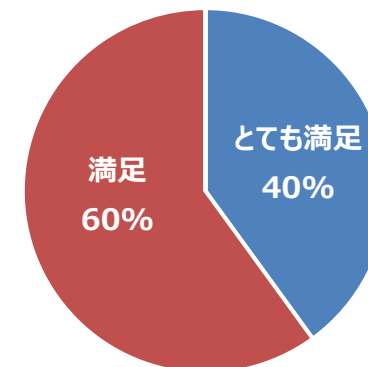
課題への対応方針

- 来年度の実施に向けては、具体的な改善策の検討に加え、利用申請手続きの簡略化や、運行业者との契約内容・運用条件の見直し等について検討を進める必要がある。

スクールバスに関する取組

- 各地域クラブが県内への遠征に市が保有するスクールバスを利用する取組を行った。今年度は5月から12月の間の利用とし、6団体が延べ8回利用した。アンケートでは、利用した団体が全て満足したと回答しており、今後も本取組を継続・充実させていく必要がある。

利用時の満足度



出典：地域クラブへのスクールバスについてのアンケート結果

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○ 市内2中学校を対象とした休日地域移行を行った。令和4年度に3競技から開始した取組だが、令和6年度の夏以降、常設部活動における休日部活動の地域移行が完了した。

- 令和4年度に取組を開始した競技等
サッカー、軟式野球、バスケットボール
- 令和5年度に取組を開始した競技等
吹奏楽
- 令和6年度に取組を開始した競技等
バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技

取組の成果

○ 単独の中学校ではチーム編成が困難であった競技について、市全域を対象としたクラブを設置したことで参加人数を確保でき、生徒が競技種目を理由に活動を断念することなく公式大会へ参加できるようになったことで、競技継続の機会が拡大した。

今後の取組における課題

軟式野球の地域クラブにおいては、3年生の引退を契機に在籍生徒数が減少し、試合に必要な人数を確保できなくなったため、大会への出場が困難となった。当該クラブでは、試合出場を希望する生徒が他市のクラブへ移籍することで活動の継続が図られたものの、人口減少が進行する中、同様の事例が今後他のクラブにおいても発生する可能性が高く、懸念される。

課題への対応方針

- 他市町に所在する地域クラブとの活動の統合や連携を進めるとともに、市外生徒の受け入れや勧誘を行う等、より広域的な枠組みで生徒を確保するための新たな工夫が必要である。
- 市としては、地域クラブの運営主体ではないことから、各クラブの自主的な活動を尊重しつつ、その持続的な運営を側面から支援していく立場となる。そのため、クラブ間の連携や統合の具体的な実施については各団体の判断に委ねられるが、市としては必要に応じて相談に応じ、課題の整理や方向性の検討を支援する。また、広域的な連携を円滑に進めるため、近隣市町の担当部署との情報共有や調整役を担い、関係団体間の橋渡しを行うことで、クラブ同士が連携しやすい環境づくりに努める。こうした支援を通じて、各クラブが主体的に工夫しながら活動を継続できるよう後押ししていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 生徒と保護者を対象に、休日部活動の地域移行についてのアンケート調査を行った。生徒には部活動や地域クラブへの加入状況や地域クラブ活動の充実度、地域クラブに参加していない理由と休日の過ごし方について、保護者には地域クラブ活動にかかる費用と送迎の負担感や地域クラブ活動に期待すること、地域クラブに加入していない生徒の休日の過ごし方についてを回答してもらった。

取組の成果

- 地域クラブに加入している生徒の活動の充実度については、「とても充実している」、「まあまあ充実している」が98%と、「あまり充実していない」、「充実していない」の2%を大きく上回った。肯定的な回答が大多数を占めていることから、地域クラブでの活動が、生徒のニーズに一定程度対応したものであると考えられる。
- 保護者アンケートの結果、地域クラブにかかる費用については、「適当である」が57%、「安いと思う」が14%、「高いと思う」が18%、「分からない」が11%であった。これにより、過半数の保護者は費用を適正な水準と捉えている一方で、約2割の保護者が費用負担を高いと感じていることが分かる。

今後の取組における課題

- 昨年度と比較すると、生徒および保護者ともにアンケートの回答率が低下していることが課題として挙げられる。特に保護者の回答数が想定を下回っており、十分な意見把握ができていない状況にある。昨年度は紙媒体による配布を行っていたのに対し、本年度は保護者連絡用アプリによる周知へと手法を変更していることから、この運用変更が回答率低下の一因となっている可能性がある。今後は、周知方法の工夫や複数手段の併用等により、回答しやすい環境を整備し、回答率の向上を図る必要がある。

課題への対応方針

- アンケート回答率の低下、とりわけ保護者の回答数不足により十分な実態把握が困難となっている状況を踏まえ、今後は回答しやすい環境の整備と周知方法の見直しを重点的に進める。保護者や学校への周知のタイミングや周知方法について改めて精査し、より効果的な伝達手段を構築していく必要がある。周知内容の分かりやすさやアクセスしやすさの向上、複数の媒体を併用した発信等、回答につながる仕掛けづくりも重要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 就学援助対象世帯のうち、対象となる地域クラブに参加する中学生の保護者に支援を行った。地域クラブの参加費や保険料、入会金等の費用を、年間22,000円を上限に支援した。
- 電子申請を行えるようにし、保護者の負担軽減を図った。保護者は、助成上限額を超えた時点で電子申請等により市に申請・請求を行い、市は審査を行ったうえで1か月以内に申請者に振込を行った。

取組の成果

- 令和8年2月末現在、就学援助世帯の生徒8名に対し、計166,000円の参加費用支援を実施した。この支援により、地域クラブ活動への参加に伴う経済的負担が軽減され、生徒が継続して活動に取り組める環境づくりが進んだ。特に、用具費や月会費、大会参加費等の負担が障壁となりやすい家庭において、継続的な参加を後押しする効果が見られ、途中離脱の防止や安定した活動参加につながっている。また、経済的理由によって活動機会が制限されることなく、他の生徒と同様にスポーツや文化活動へ参加できる環境が整備されたことにより、生徒の自己肯定感や所属意識の向上にも寄与している。

今後の取組における課題

- 大野市における就学援助世帯生徒への参加費用支援は、常設部活動として学校に部活動が設置されている種目の地域クラブに参加している場合のみを対象としている。そのため、同じように地域クラブに参加していても学校に対応する部活動が存在するか否かによって支援の対象となるかどうかに分かれ、支援の可否に不公平が生じている。

課題への対応方針

- 地域クラブの支援対象に不公平が生じている現状を踏まえ、より公平で分かりやすい制度とするため、これまで常設部活動として学校に設置されている種目のみを対象としてきた支援範囲を見直し、塾を除く各種習い事へと対象を拡大する方針とする。これにより、他課において実施している小学校年代への同様の支援施策を中学生年代へと切れ目なく接続することが可能となり、継続的な支援体制の構築が図られる。また、従来の部活動と同一種目に限定されない多様な活動についても支援対象とすることで、子どもたちの幅広い興味・関心に応じた活動機会の確保につなげていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 施設利用申請にあたっては、予約システムからの申請が可能となり、学校施設等の体育施設にスマートロックを導入している。
- 大野市公共施設使用料減免規則の改正にあわせ、地域クラブの減免について検討を行った。
- 熱中症予防のため、夏休み期間のみ通常の使用可能時間より早い時間から使用を可能とする対応を取った。

取組の成果

- 施設利用予約システムやスマートロックの導入により、利用者・施設管理者の利便性が向上した。
- 地域クラブ活動は公共施設の使用料が免除になった。また、これまでナイター使用料が減免とならなかったところ、高校生以下の利用が3/4減免となり屋外で夜間に活動する団体の費用負担が軽減された。

今後の取組における課題

- 地域クラブの活動場所については、一般利用者との共用が前提となっているため中学生クラブに対して特別な優先利用枠を設けていないが、安定した練習環境を確保するために「地域クラブを優先的に利用させてほしい」という要望が複数寄せられている。さらに、来年度は複数の施設で改修工事等に伴う利用不可期間が生じる見込みであり、活動場所の確保が一層困難になることから、限られた施設資源をどのように配分し運用していくかが喫緊の課題である。

課題への対応方針

- 限られた施設資源を公平かつ安定的に運用するための方針を整理する必要がある。このため、改修予定施設をこれまで利用してきた団体については活動が継続できるよう代替施設の提案や利用調整を行い、影響の最小化を図る方針である。また、県所管施設の工事に関しては、全面的な利用停止ではなく、工事に支障のない範囲については引き続き利用が可能となるよう、県の担当部署や施設管理者に対して積極的に働きかけを行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 学校施設の利用に伴う手続きや鍵管理の負担を軽減するため、電子申請システムを活用した申請手続きの簡素化を進めるとともに、予約システムと連動したスマートロックの導入を行っている。

用具使用・管理等における取組

- 要望のあった地域クラブが所有する備品を保管する場所として、廃校となった学校の空きスペースを確保し、必要な備品を安心して保管できる体制を整えている。
- 活動内容に応じて学校が保有する備品を地域クラブに使用してもらうことで、クラブ側の負担軽減を図るとともに、用具の確保が理由で活動が制限されることのない環境づくりを推進している。

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- サッカー競技において、休日だけでなく平日の部活動も地域移行を行っている。

取組の成果

- 平日の部活動の地域移行については、サッカーのみが平日も含めて地域クラブへの移行を完了している。これにより、サッカーにおいては学校の教職員の負担軽減と地域での安定した指導体制の確保が実現しており、平日移行に向けた具体的な成果が確認できる。

今後の取組における課題

- 平日部活動の地域移行については、指導者の確保と活動場所の確保の両面において大きな課題が生じている。まず指導者については、地域クラブで指導にあたる人材の多くが本業の仕事を持ち、その傍らで指導を行っているため、学校で部活動が行われる夕方の時間帯に指導を行うことが難しい状況にある。また、活動場所の確保についても、指導者が指導可能となるのは主に夜間の時間帯であるが、その時間帯は一般の団体による利用があり、希望する時間に学校施設や地域の体育施設を確保することが難しくなる。こうした指導者の時間的制約と施設利用の競合が重なることにより、平日部活動の地域移行は現状では非常に困難な状況となっている。

課題への対応方針

- 地域クラブに加入して本格的に活動する意思までではないものの、学校の部活動で一定の活動を続けたいという生徒の需要もある。指導者の確保や活動場所の確保が困難で平日部活動の全面的な地域移行が難しい現状も踏まえ、生徒の多様なニーズに応える観点から、平日の部活動については現行のとおり維持する方針である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度の実証事業では、関係者間の連携体制の強化、スクールバスの活用や競技団体との協働による活動環境の整備、参加費負担の軽減、施設利用の利便性向上、用具保管スペースの確保等、多面的な取組を進めた。

本年度は特にスクールバスの試験利用に取組んだ。地域クラブが県内遠征等に行く際の移動手段として利用できるよう、スクールバス運行業者との調整や予約方法の調整を行った。利用した団体からは利用に満足したとの回答もあり、遠征等にかかる保護者負担の軽減に寄与できた。

また、トラブル時のフロー図の作成を行った。これまでに特段トラブルの相談はなかったものの、地域クラブへの指導はどこから行うかが関係課の中での懸案事項となっていた。そのため、どのようなルートで解決を図るかを事前に定めておくことで、実際にトラブルの相談があった際にスムーズに相談を進めることができるように参考として作成した。

これらの取り組みにより、地域クラブの運営を支える環境整備が一層進み、移動手段の確保やトラブル対応体制の明確化といった、クラブ活動の基盤を支える仕組みづくりを強化することができた。

●成果の評価

今年度は、遠征時の移動手段の確保や、トラブル発生時の対応方法について改善を図ることができた。トラブル時のフロー図を作成したことで、相談窓口や対応手順が明確となり、昨年度の「対応の曖昧さ」という課題が解消に向かった。

スクールバスの試験利用では、運行業者との調整や予約方法を整理し、地域クラブが安定して利用できる体制を構築した。また、施設使用料の減免を実施したことにより、地域クラブにおける施設利用に係る経済的負担を軽減することができた。これらのことにより、団体運営における費用面の安定化が図られただけでなく、活動回数の維持や継続的な練習環境の確保につながるなど、クラブ運営全体の下支えとして一定の効果があったものと評価できる。費用負担の軽減は、新規参加や継続参加に対する心理的なハードルの低下にも寄与しており、結果として生徒が安心して地域クラブ活動に参加できる環境整備の一助となっている。さらに、経済的事情にかかわらず活動機会を確保する観点からも、機会格差の縮小に資する取組として意義があったといえる。

●今後に向けて

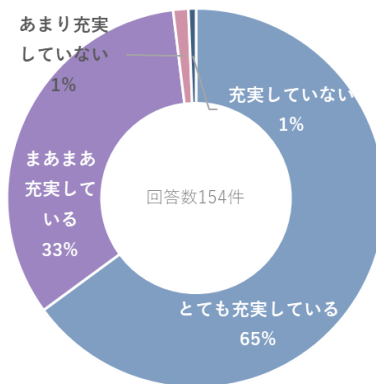
来年度からは、中学生の休日・放課後の活動を幅広く支えるため、常設部活動の競技に限らず、中学生が参加できるクラブを対象に支援の範囲を広げていく方針である。これに伴い、活動費や施設使用料の免除といった経済的支援や遠征等における移動手段の確保等、これまで一部の地域クラブのみを対象としていた支援を、より多くの活動へ拡大していくことを検討している。これにより、これまで同じように活動していながら支援の対象・対象外が分かれることで生じていた不公平感が解消され、等しく支援を受けられる仕組みを整備することが可能となる。

2.実証内容と成果②

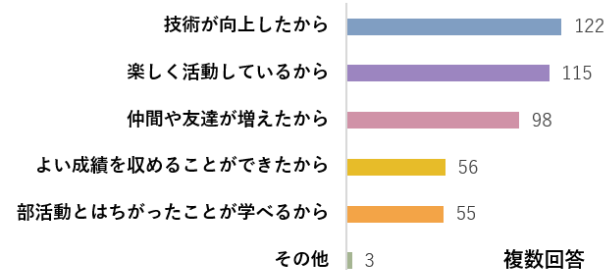
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

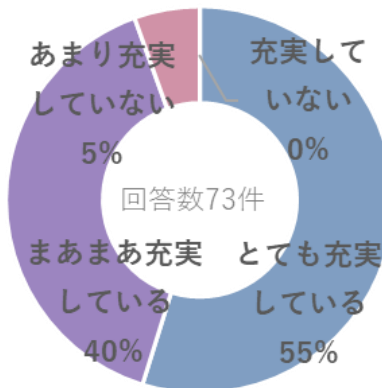
Q地域クラブでの活動は充実していますか
(生徒)



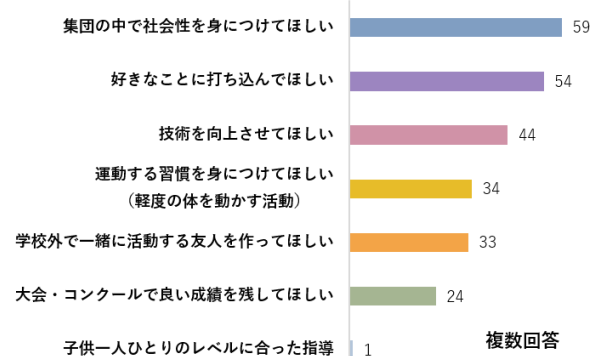
Q「充実している」「まあまあ充実している」
理由は次のうちどれですか (生徒)



Q地域クラブでの活動は充実している
と思いますか (保護者)



Q地域クラブでの活動に期待することは
ありますか (保護者)



出典：令和7年度休日部活動の地域移行についてのアンケート結果

●参加者/関係者の声

中学1・2年生

- もっとバスケの練習時間を増やしてほしい
- 器具を増やして欲しい
- もっと上達するためにもっと教えてほしいです！
- 1回700円は高いので安くしてください
- 楽しいです
- まだ小学生みたいなのでしっかりして欲しい

保護者

- 遠征が多く、配車や金銭的に負担が大きい。スポンサーも増えているようだが、何かとお金がかかる。
- 学校の顧問の先生が、休日部活動のことをどこまで把握しているのか疑問です。
- 地域移行するのであれば保護者の時間や金銭的な負担をどうするかも考えてほしい。また、市内では選択肢も少ないので選択肢が増えるような取り組みも必要だと思う。
- 子どもが少なく、休日活動する子も少なく、大変な中、顧問の先生やクラブの指導者の方が柔軟に対応してくださって活動が継続できています。とても感謝しています。
- 地域移行と言われているが、市内のクラブでは週1回しか練習がないため、移行というわりに何も移行できていないんじゃないかと少し疑問に思います。指導者がいない等いろいろな問題があるのでしょうか、地域移行というのであれば、もう少ししっかりとした体制を整えてほしいです。

2.実証内容と成果③

参考資料



大野市サッカー協会 練習風景



大野市軟式野球連盟 練習試合



Axis大野ジュニアバスケットボールクラブ 練習風景



上庄Titans 大会参加

2.実証内容と成果④

参考資料



ピクルス 大会参加



Shiny Crew 大会参加



大野ジュニアBC 大会参加



大野市卓球協会 練習風景

2.実証内容と成果⑤

参考資料



大野市ソフトテニス協会 練習風景



大野市陸上競技協会 練習風景（ウォーミングアップ）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

部活動顧問・
関係団体との
検討を開始

学校現場と地
域クラブとの調
整

生徒、保護者
への説明

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の拡大

休日部活動の地
域移行の完全実
施

●ステークホルダー

学校、各地域クラブや競技団体、
市教委

●経過

実践研究を実施する受け皿団体も検討委員
として参加し、活動状況報告にてお互いの状
況を確認しながら実践研究を進めた。

●実施内容、工夫した点 等

団体競技は少子化により練習試合が単独で
できない状況になっており、早急に校区を越え
た広域での活動とする必要があったため、受皿
団体の理解が得やすく、お互い協力して実践
研究を進めることができた。

●ステークホルダー

学校、各地域クラブや競技団体、
市教委、総括コーディネーター

●経過

令和5年度より、総括コーディネーターを配置し、
学校顧問と地域クラブと教育委員会の3者で
の協議の場を設けた。

●実施内容、工夫した点 等

先行する3競技の実践研究や実証事業を参
考に、各競技団体と総括コーディネーターが、
競技ごとに個別に協議を重ねた。その結果、残
りの5競技すべてにおいて受皿団体が確保でき、
令和6年度より実証事業ができる体制が整った。

●ステークホルダー

学校、各地域クラブや競技団体、
市教委、総括コーディネーター

●経過

令和6年度の夏季大会終了後より、休日の部
活動を地域クラブ活動へ完全に移行するため、
休日に活動するすべての部活動の受皿団体を
確保した。また令和7年度から男子バレーボ
ールチームが活動を開始し、市内での活動の選
択肢が広がった。

●実施内容、工夫した点 等

今年度新たに設立となった地域クラブについ
ては、各競技団体と市、学校顧問間の協議を複
数回もつことで、スケジュール通りに活動を開始
することができた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

改革推進期間		改革実行期間	
令和5年度～7年度 「改革推進期間」		令和8年度～10年度 「改革実行期間」(前期) 令和11年度～13年度 「改革実行期間」(後期)	
令和5～7年度		令和8年度	
常設部活動・地域クラブ活動	令和4年より実証事業を開始 ★R4～ サッカー・バスケットボール・軟式野球 ★R5～ 吹奏楽(中吹連) ★R6.4～ バレーボール・卓球・バドミントン ★R6.9～ 陸上、ソフトテニス ★R6.10～ 吹奏楽(ジュニア吹奏楽団) →常設部活動の休日活動は全て地域移行完了 【検討してきた課題】 - 練習会場の確保や使用料について - 中学校行事の日程統一について - 地域クラブのスクールバス利用について - 吹奏楽部の楽器や練習場所について - 特設部活動や部活動にない活動のあり方についての検討など	方針 平日は学校で部活動を行う 休日は地域クラブで活動する	【目指す姿】 ◎子どもたちが将来的に継続して、学校に代わり地域で、それぞれに適した環境で活動を行うことができるよう、地域におけるスポーツ・文化活動の環境整備を行う。 ○経済格差に伴う経験格差の解消を図る。 ○地域クラブの活動が維持できるよう、教育総務課、スポーツ推進課、地域文化課が連携して、必要となる支援を検討する。 【働き方改革について】 休日の部活動地域移行前後における教員の部活動指導の比較(中学校全体) ■6月について比較(部活動指導が忙しい時期) ○時間外在校時間等時間(休日も含む)のうち部活動指導の時間 R4 平均26時間28分 → R7 平均3時間15分 平均:23時間13分の改善 ○休日の平均勤務日数(勤務の内容を問わない) R4 平均3.0日 → R7 平均0.6日 平均:2.4日の改善 ■10月について比較(休日の部活動の地域移行完了前と後を比較) ○時間外在校時間等(休日も含む)のうち部活動指導の時間 R4 平均16時間58分 → R7 平均2時間25分 平均:14時間33分の改善 ○休日の平均勤務日数(勤務の内容を問わない) R4 平均2.8日 → R7 平均0.4日 平均:2.4日の改善
	対象となる活動 ①常設部活動と同じ活動 ・軟式野球 ・サッカー ・バスケットボール ・バレーボール ・卓球 ・バドミントン ・ソフトテニス ・陸上競技 ・吹奏楽 ②特設部活動と同じ活動 ・柔道 ・剣道 ・相撲 ・水泳 ・スキー ・クロスカントリー ③その他元々部活動のなかった活動 ・硬式野球 ・クリエイティブクラブ ・空手 など(学習塾を除く) ④中学生が参加できる大人の活動 ・ソフトバレーボール ・合唱 ・ベタンク ・いけ花 など	実施内容(予定) 【新】 - 地域クラブ(指導者)の認定制度の運用 - 生徒の減少により活動が難しくなった団体についての検討 - 地域展開の推進委員会、認定地域クラブとの意見交換会の実施 【継続】 - 地域クラブへの補助金の交付 - スクールバス利用制度の運用 - 就学援助世帯生徒への参加費用助成(拡充)	
	検討委員会等 ■検討委員会を開催(スポーツ推進課、地域文化課と連携) 毎年3回(R7は2回)の検討委員会を実施 参加者:各地域クラブ、スポーツ協会、文化協会、PTA連合会、中学校長 ■3課の担当者会議を実施(R7) 部活動の地域移行における課題を解決していくため、定期的に3課で担当者会議を実施する。 ※3課…(教育総務課、スポーツ推進課、地域文化課)	推進委員会等 ■中学生の休日・放課後活動地域展開推進委員会を開催(年2回開催) 【内容】地域展開の方針などを検討 【参加者】 地域クラブの代表者、スポーツ協会、文化協会、PTA連合会、校長会 ■意見交換会(仮称)を開催 【内容】意見交換など 【参加者】全ての認定地域クラブ代表者 ■3課の担当者会議を実施 部活動の地域移行における課題を解決していくため、定期的に教育総務課、スポーツ推進課、地域文化課で担当者会議を実施する。	

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県勝山市

自治体名： 福井県勝山市

担当課名： 教育総務課

電話番号： 0779-88-8111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	253.88km ²
人口	20,653人 (令和8年1月末現在)
公立中学校数	3校 (令和6年4月1日現在)
公立中学校生徒数	478人 (令和7年5月1日現在)
部活動数	28部活 (令和7年4月1日現在)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未設置

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

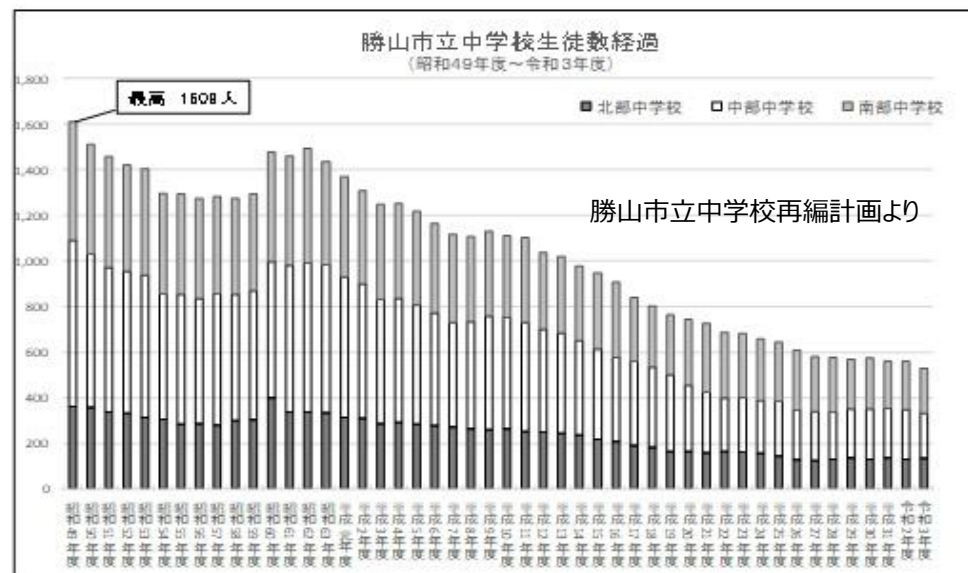
○勝山市には3つの中学校があるが、近年、少子化の影響を受けて生徒数が大きく減少している。約50年前の昭和49年には1,609人であった生徒数が、令和7年には478人と1/3に減少している。

単独校においては部活動ができず休部になっているところや、大会出場のために3校で合同チームを結成しているところもある。

このような状況から、勝山市では市内3中学校を1校に再編統合し、令和9年4月に県立勝山高校の敷地内に開校する工事を進めている。

市立の中学校と県立高校が同じ敷地に同居する「中高一貫教育」は県内では初めてのケースで、全国的にも珍しく注目を集めている。

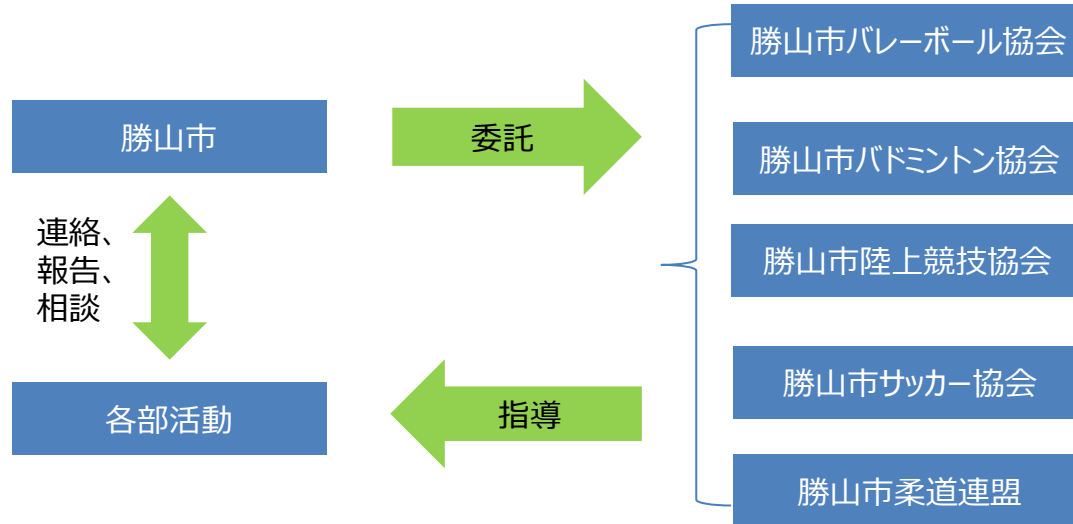
そういった中で、勝山市では、令和8年の秋以降、休日の部活動は全て地域展開を行う方針とし、平日においても受け入れ体制の整ったクラブから地域展開を進めていく方針である。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・事務の総括、学校との連絡調整

◎首長部局

- ・各種スポーツ団体との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和7年4月	・各競技団体と地域移行に関する打合せ ・各競技団体において参加者等への説明 ・5競技において事業実施
令和7年5月	・各競技団体の活動内容視察
令和7年8月	・中学校部活動についての意見交換会
令和7年9月	・勝山市地域スポーツ・文化活動ワーキングチーム会議
令和7年10月	・勝山市中体連臨時理事会
令和7年11月	・地域移行対応可能団体の洗い出し（令和8年度以降）
令和7年12月	・勝山市地域スポーツ・文化活動ワーキングチーム会議
令和8年1月	・次年度以降の活動体制について聞き取り（国実証実験希望団体）
令和8年2月	・令和7年度実績報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域展開した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5クラブ（5部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	36名	全体の運営スタッフ数	36名

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施時間 帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
勝山市バドミントン協会	地域スポーツ団体	バドミントン	週 1回 （土曜日中心）	13:00～ 16:00	1年 16名 2年 26名 3年 8名	4月～2月	勝山南部中学校体育館等	21名	21名	－	中体連：部活動 その他：地域クラブ
勝山市バレーボール協会	地域スポーツ団体	バレーボール	週 1回 （土曜日中心）	9:00～ 12:00	1年 7名 2年 13名 3年 14名	4月～2月	ジオアリーナ等	6名	6名	－	中体連：部活動 その他：地域クラブ
勝山市陸上競技協会	地域スポーツ団体	陸上競技	週 1回 （土曜日中心）	9:00～ 12:00	1年 5名 2年 5名 3年 2名	4月～2月	大野市ふれあい公園 等	6名	6名	－	中体連：部活動 その他：地域クラブ
勝山市サッカー協会	地域スポーツ団体	サッカー競技	週 1回 （土曜日中心）	8:30～ 11:30	1年 11名 2年 11名 3年 24名	4月～2月	勝山中部中学校グラウンド等	1名	1名	－	その他：地域クラブ
勝山市柔道連盟	地域スポーツ団体	柔道競技	週 1回 （土曜日中心）	18:00～ 20:00	1年 2名 2年 0名 3年 0名	4月～2月	B&G体育館 柔道場	2名	2名	－	中体連：部活動 その他：地域クラブ

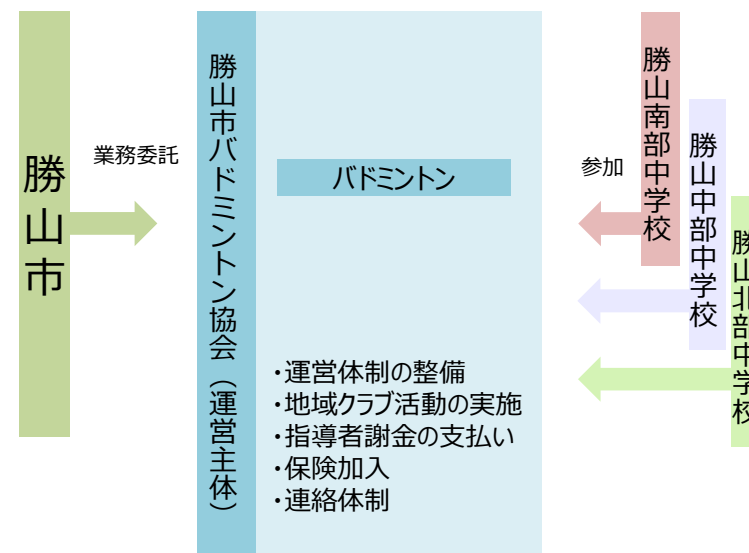
2.実証内容と成果

主な取組例

●勝山市バドミントン協会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	勝山市バドミントン協会
期間と日数	4月12日～12月6日（週1回程度）
指導者の主な属性	協会員、教員、大学生
活動場所	勝山南部中学校体育館
主な移動手段	各自現地集合
1人あたりの参加会費等（年額）	－ 円
1人あたりの保険料	－ 円 ※スポーツ協会が掛ける保険で代用

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、実施日の確定、会場確保、指導者の調整

●主任指導者 2名

役割：指導者と練習内容を整理し、学校や参加者（保護者）と調整を行う

●指導者 19名

役割：主任指導者の指導計画を元に生徒の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

バドミントン協会では、下記の取組を行った。

- ・ 生徒や保護者への連絡体制の確立
- ・ 指導者との連絡体制の確立
部活動では、学校の連絡体制を利用できたが、地域クラブとして
教員を通さなくてもよい、LINEグループ等の体制整備を検討
- ・ 運営団体の整備等

今後の取組における課題

- ・ 学校や地域クラブ活動団体との連絡調整体制の整備
平日の認定クラブ活動と学校部活動の連携
- ・ 中高一貫教育実施予定の県立勝山高校との連携
高校体育館と市営体育館の他、近隣の小・中学校体育
館などを活用した、効果的な練習会場の確保
- ・ 県内クラブ間のネットワーク構築

取組の成果

- ・ メールやLINE等を活用した生徒や保護者への連絡体制を構築。
- ・ 指導者間についても上記と同様な連絡体制を構築し、学校部活動
と地域クラブの練習内容を共有。
- ・ 運営団体については従来からあるバドミントン協会が担っており、これ
までにジュニア育成等の事業を実施しており、その際に構築した実績
に基づき運営できた。
- ・ 近隣市町（坂井市）のクラブと交流会を行い、新たなネットワークを
構築した。

課題への対応方針

- ・ 今後は、推進組織を設置し、各種団体間及び団体内の連絡システムの
在り方を共有していく。
- ・ 一般の指導者の数が増えてきたため、学校関係者中心の指導から、全体
での指導がスムーズに進むよう、連絡体制を強化する。
- ・ 今後は時間に余裕のある世代にも声をかけて指導に参加してもらうことや、
高校生年代との練習等も取り入れていきたい。
- ・ 平日の練習について、市内の中学校を巡回する方法でクラブの活動を週
1回程度実施する。この練習会に参加できる一般の指導者確保をめざす。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- それぞれ違う学校から参加していることもあり、当初は基礎技術の向上と基礎体力の向上、および参加者が仲良くなるための指導を中心に実施した。
- ある程度基礎が固まってからは、参加者のレベルに分けて指導を実施した。
- シングルスだけではなく、ダブルスの指導も実施した。

活動の詳細			
参加人数	50人	指導者数	21人
属性	バドミントン競技		
具体的な内容	バドミントン競技の指導 ・ 基礎練習 ・ ゲーム形式の練習 ・ 基礎体力の向上		
参加者の声	● 違う学校の仲間と一緒に練習できたことがうれしかった。大勢で練習できて良かった。 ● 違う学校の子や、違う学年の子ともペアを組んで練習したり、対戦したり等して楽しかった。 ● 教えてくれる人が丁寧に教えてくれた。いろいろな意見を聞けてよかった。 ● 午後からの練習だったので、宿題等の用事を片づけてから参加できてよかった。 ● 参加者のレベルが高い人もいて、ついていくのに苦労した。		
関係者の声	● 最初は参加者のレベルがまちまちで、指導にも戸惑ったが真面目に参加してくれる生徒が多く、参加者の多くが一定のレベルまで達することができた。（指導者） ● 教員でない指導者に対しても挨拶等がしっかりできていて良かった。（指導者） ● 生徒が学校の区別なく、異学年とも仲良く活動していたので指導しやすかった。（指導者） ● 送迎が大変なこともあった（保護者）		
運営経費	運営経費に関しては国委託金及び県補助金、市委託金で賄った		

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

バドミントン競技は昭和43年に開催された第23回国民体育大会において、勝山市が競技会場となったことにより競技人口が増え、強化も進んだ。

過去には、全日本選手権（シングルス・ダブルス）優勝者である長谷川博幸氏や東京・パリオリンピックに出場した山口茜選手を輩出しており、中学生年代においても平成17年には勝山南部中学校が団体で全中優勝する等「バドミントン王国」であった。

近年は少子化により部員数も減少傾向にあるが、小学生年代ではバドミントンのスポーツ少年団活動が盛んであり、また「バドミントン王国」世代の指導者が活動しているこのタイミングで中学生年代のバドミントン競技を盛り上げることによって、小さな町でも競技が継続でき、将来につなげることができるような体制の確保を目指した。

今年度もバドミントン競技の地域移行に関しては50名の参加登録があり、市内にある運動部活動の中では非常に多くの参加者を集めることができた。

●成果の評価

- ・参加者は多く、参加率も非常に高かった。（実証実験実施期間を通じての参加率は80%を超えている）
- ・指導者においても市内外からバドミントン経験者で高校年代等で全国大会を経験したメンバーを集めることができ、技術的には高度な指導が実施できた。
- ・初心者から参加した生徒もいたが、丁寧な指導を心がけたので続けて参加してくれ、平日の部活動においても積極的に活動しているとの報告を顧問から受けた。
- ・中学校を卒業してもバドミントンを続けるため、地元の勝山高校に進学する生徒が多かった。

●今後に向けて

- ・次年度以降も地域展開に向けた活動を取組むにあたり、統括責任者等のお世話をする人間の若返りを図りたい。
- ・指導者の確保に関しても大人世代だけではなく、地域移行を経験した高校生等にも今後協力を求めたい。
- ・令和9年度より、勝山高校敷地内に、市内3中学校を統合した勝山中中学校を開校し、連携型中高一貫教育を開始する。バドミントンの強豪校である勝山高校との連携の中で、バドミントンに対する中学生の関心を高め、部活動、地域クラブ活動がどのように役割を分担するかについて検討を進めたい。

2.実証内容と成果

参考資料



【バドミントンの試合風景】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討開始

受け皿団体や
指導者の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和5年

地域クラブ活動
の開始

令和8年

記載例)
地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市長部局、市教委

●経過

令和4年度末に国の実証実験を受けるにあたり、各種スポーツ団体や学校現場と相談したが、土台となる総合型地域スポーツクラブがなく新たに立ち上げるのは困難であった。しかし、勝山市スポーツ協会では各団体に補助金を出し、小中学生年代のスポーツ普及・強化活動を実施していた実績があったので、その手法を拡充する方法で地域スポーツクラブ活動の端緒とすべく検討したところ、単一競技ではあるがバドミントン、バレーボール、陸上競技の各協会が実施に手を挙げてくれた。

●実施内容、工夫した点 等

令和9年度の中学校統合（3校→1校）に向け、学校間の垣根を越えた活動については望むところであり、特にバドミントンについてはオリンピック選手も輩出する等、過去から人気の部活動でありその競技団体が手を挙げてくれたことは非常に喜ばしいことであった。令和5年の地域移行のこけら落としには実業団選手を呼び生徒の興味を誘った。また、地域クラブの活動に当たっては市営施設の使用料を学校利用と同じとし、減免の措置を取る等し、クラブが活動しやすい環境の整備も行った。

●実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、指導者を集めることが最も難しい。また、保護者も部活動と地域スポーツクラブの違いを理解いただけず、学校へ問い合わせをすること等も見受けられた。

また、団体種目によっては指導者と保護者の意見が合わず活動を開始したが、1年間で活動停止に至ったクラブもあった。

●今後の展開

令和8年秋からは、市内すべての中学校において休日の部活動を実施しない予定である。本格的にスポーツを追及するようなクラブだけではなく、楽しんで活動できるように平日から部活動という名称ではなく放課後活動として様々な体験ができるよう工夫したい。そのためにスポーツ協会だけではなく、スポーツ少年団や文化協会等とも連携し、様々な活動の展開を実施していく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	目指す姿
県	ガイドラインの改定				○ 中学校統合に合わせた生徒の放課後活動の確保 ○ 地域スポーツや地域文化の新たな担い手として ○ 中学生に活躍の場を設ける
市	学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	
学校	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導 余暇としての教員の指導 生徒・保護者からの意見徴収	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導 余暇としての教員の指導 生徒・保護者からの意見徴収	
団体	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施（参画団体の拡充） 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県鯖江市

自治体名：福井県鯖江市

担当課名：学校教育課 スポーツ課

電話番号：代表 0778-53-2260

1.自治体の基本情報

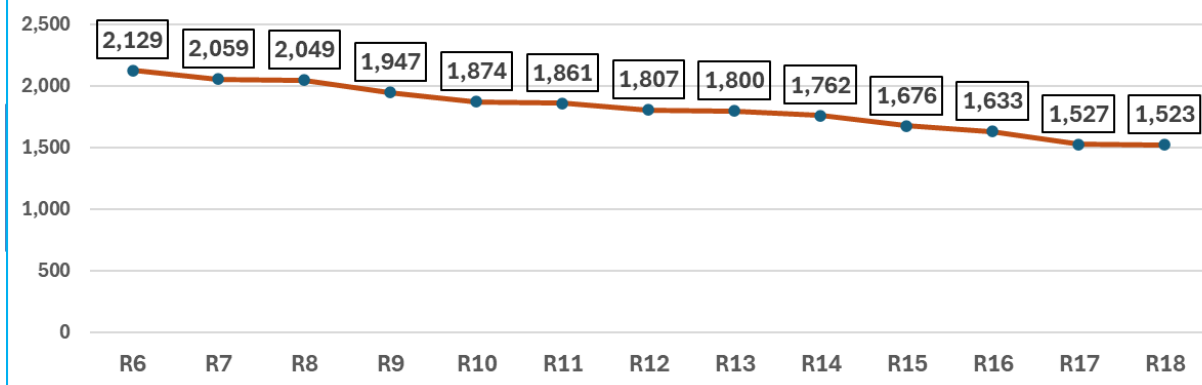
基本情報

面積	84.59km ²
人口	68,179人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	2,049人
部活動数 (運動部活動のみ)	42部活
地域クラブ活動数	51クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

- 本市の中学校は、大規模校2校、中規模校1校であり、現在、少子化による学校部活動存続等の問題は出ていない。
- 本市地域展開の取組は、令和3年度より国のモデル事業を実践から始めている。
- 令和4年度に協議会を設置し、中学校区にある3つの総合型地域スポーツクラブを運営団体、傘下の種目を実施主体とすることとした。また、基本方針において、令和5年度から7年度までを学校部活動と地域クラブ活動の併存期間（連携・協働）とし、令和8年度より本格開始できる体制づくりを進めている。
- 活動拠点は中学校施設を主会場とし、市内施設も活用している。
- 会員になった中学生は、どのクラブにも参加できるよう、3クラブ合同での個人保険加入、また、団体としての責任を持ち、物品等の破損補償や運営団体での損害賠償対応のため、団体保険に加入している。
- 「クラブ組織再編委員会」を設け、新しい会費の設定および持続可能な運営団体育成を目指すため、将来に向けたクラブ再編等を学識経験者からも意見を聞き、来年度は事務局の統一化、将来的にはクラブ統合することとなった。

鯖江市中学校生徒数推移

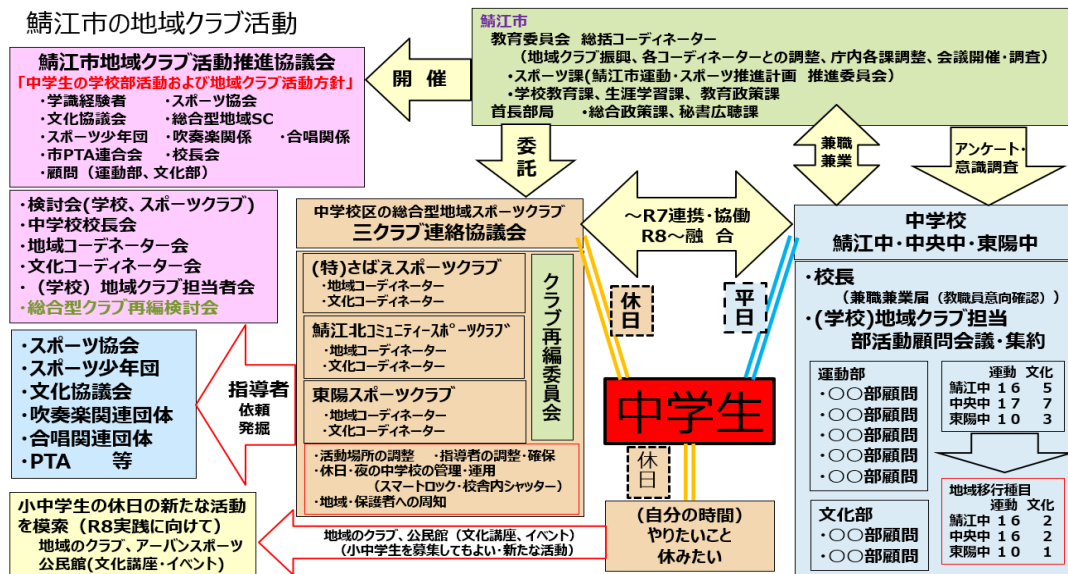


出典：鯖江市教育委員会資料抜粋

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図 ※次項に拡大図有



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課、スポーツ課、生涯学習課、教育政策課）

- ・学校教育課・・・学校部活動、教職員兼職兼業、中体連予算、準要保護
- ・総括コーディネーター・・・地域展開構想、計画作成、教育委員会・市長部局との調整、クラブ運営助言、地域クラブ関係会議開催、関係団体との調整
- ・スポーツ課・・・総合型地域スポーツクラブ、学校開放、公認指導者資格、運動・スポーツ推進計画
- ・生涯学習課・・・公民館活動（休日文化講座小中受け入れ）
- ・教育政策課・・・学校施設整備、管理

◎首長部局（総合政策課、市長広聴課）

- ・総合政策課・・・スポーツSDGs（指導者研修会開催）
- ・市長広聴課・・・市広報誌での地域展開周知

年間の事業スケジュール

令和7年

毎月開催 三クラブ連絡協議会

4月、9月、1月開催

学校・・・中学校長会、（学校）地域クラブ担当者会
クラブ・・・地域・文化CD会、各クラブ事務局説明会

4月 各スポーツクラブ役員への説明会

クラブ組織再編委員会

5月 各中学校PTA総会への出席（各クラブ理事長説明）

クラブ組織再編委員会

6月 三クラブ打合せ会

7月 クラブ組織再編委員会

鯖江市運動・スポーツ推進計画 推進委員会

8月 関係団体との調整会議

9月 三クラブ広報委員会

10月 クラブ組織再編委員会

地域クラブ活動検討会

11月 三クラブ広報委員会、三クラブ打合せ会

令和8年度各中学校入学説明会

12月 教育委員会（令和7年までの活動、令和8年以降の活動説明）

地域クラブ活動推進協議会（新会費、ガイドライン）

三クラブ広報委員会

1月 鯖江市地域クラブ活動推進協議会

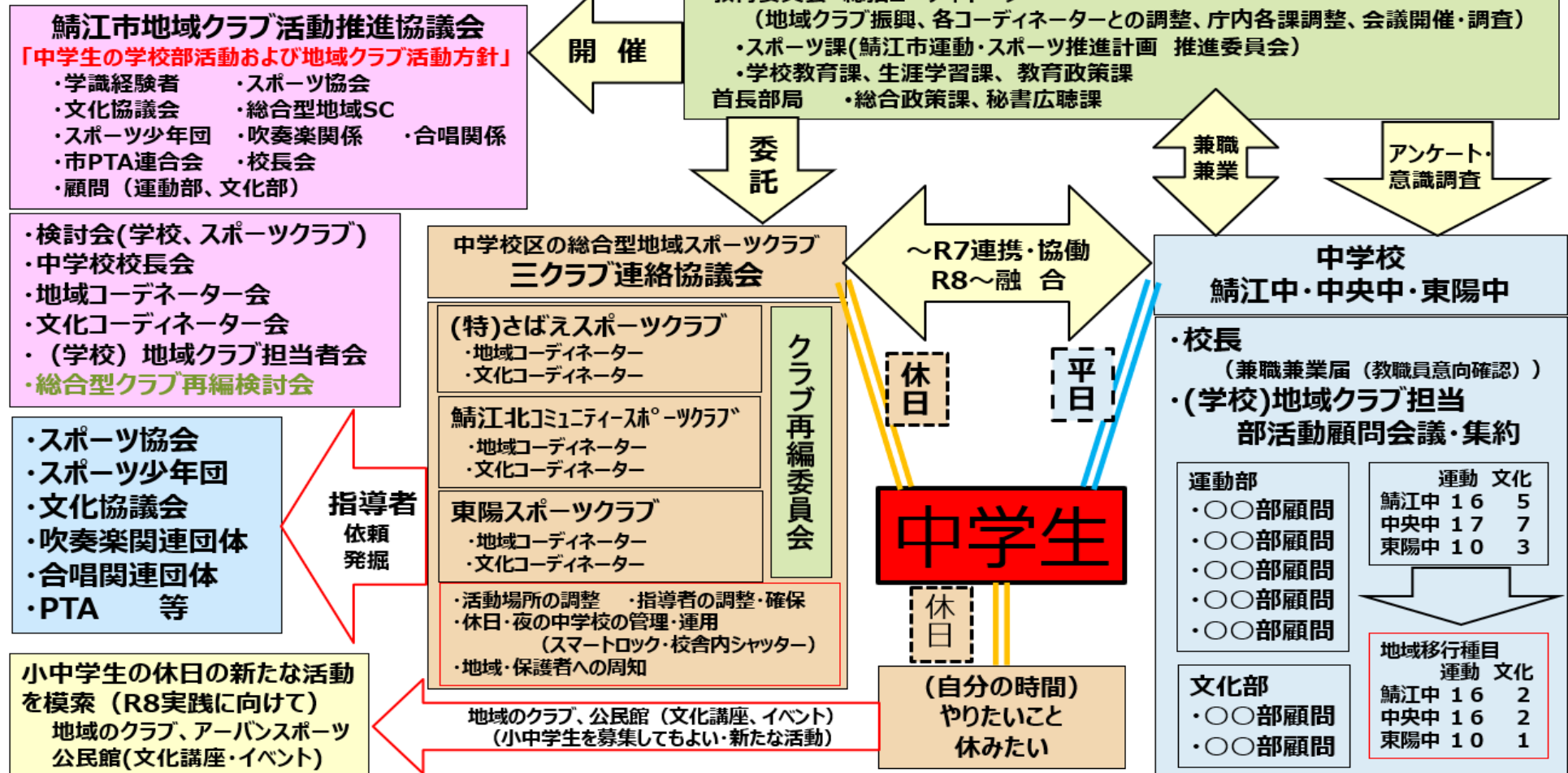
2月～3月 関係団体・学校・保護者向け説明

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

鯖江市の地域クラブ活動



2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		51クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	41クラブ（41部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	9クラブ	
全体の指導者数	146人	全体の運営スタッフ数	5人

②各地域クラブ活動に関すること（中学生活動）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
(特非) さばえスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、新体操、ホッケー	・休日4回 (月)	休日 9:00～17:00 (約3時間)	中学生 (1～3) (陸上) 小中高校生	4月～3月	57人	3人	6,000円 /年額	中体連： 部活動 その他： 地域クラブ
		なぎなた、硬式テニス、ボクシング、合気道	・平日（週） 1回～2回 ・休日（週） 0回～1回	平日 18:00～20:00 休日 9:00～16:00 (約3時間)	小中学生 (合気道) 一般も含む		—			地域クラブ
東陽スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、剣道、軟式野球、卓球	・休日4回 (月)	休日 9:00～17:00 (約3時間)	中学生 (1～3) (陸上) 小中高校生		39人	1人		中体連： 部活動 その他： 地域クラブ

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
鯖江北コミュニティスポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、バドミントン	・休日4回 (月)	休日 9:00～17:00 (約3時間)	中学生 (1～3) (陸上) 小中高校生 ※3クラブ合同	4月～3月	50人	1人	6,000円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
		なぎなた、硬式テニス 少林寺拳法	・平日(週) 1回～2回 ・休日(週) 0回～1回	平日 18:00～20:00 休日 9:00～16:00 (約3時間)	小中学生 (少林寺) 一般も含む		—			地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 三スポーツクラブ 会員募集チラシ内で活動紹介（市内全戸配布）
- 2月鯖江市広報誌 地域クラブ活動本格実施・会費説明（市内全戸配布）
- 各運営団体
 - さばえスポーツクラブ
 - ・スラックライン（アーバンスポーツ）を毎週定期開催
一般、親子での参加実績。
中学生も参加することがあるが、夜開催のため多くは見られない
 - ・ショートテニス（ニュースポーツ）を毎週定期開催
一般、親子での参加実績。
ソフトテニス部に所属している中学生の参加があるが、夜開催のため保護者送迎が可能な中学生が参加。
 - 鯖江北コミュニティスポーツクラブ イベント BMX、パルクール体験会 募集は市内小中学生
 - 東陽スポーツクラブ イベント 「ウォーターフェス」
 - ・東陽中学校区の公民館と協力し、中学生が企画したイベントを開催

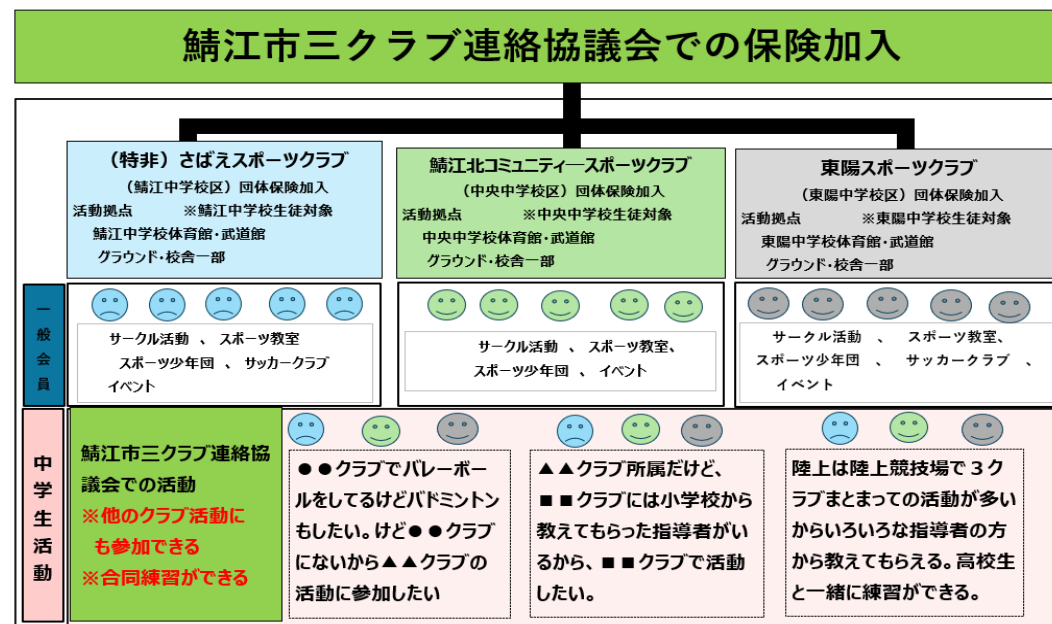
2.実証内容と成果

主な取組例

●三クラブ連絡協議会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、バドミントン、新体操、ホッケー
運営団体名	鯖江市総合型スポーツ三クラブ連絡協議会 ※令和8年～事務局一本化、今後組織再編 (特非) さばえSC、鯖江北CSC、東陽SC ※三クラブともJSPO登録クラブ
期間と日数	全種目：令和7年4月5日 ～ 令和8年3月29日 月4回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ指導者 兼職兼業（教員）、保護者
活動場所	中学校体育施設 社会体育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	クラブ会員費（運営費） 年会費 6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人：800円/年 指導者1人：1,850円/年 団体保険 各クラブ：約100,000円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図 ※次項に拡大図有

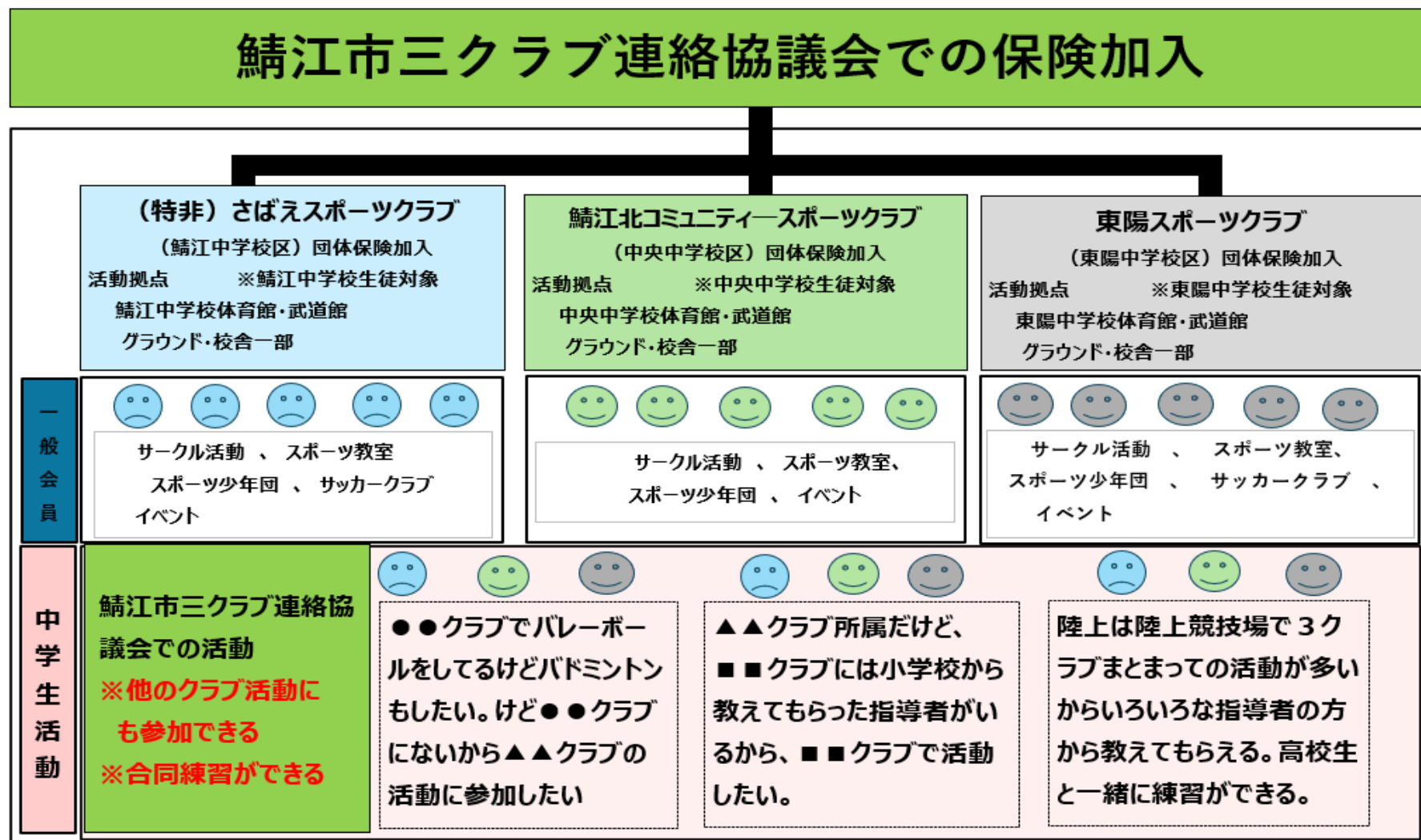


●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 自治体 役割：総括のコーディネート（地域コーディネーター、各クラブからの相談対応）
- 統括責任者（各クラブ地域コーディネーター 3名）
役割：各種目の指導者との連絡調整、他クラブで活動したい会員（中学生）サポート
指導者の質の向上と量の確保に向けた取組（研修会参加依頼等）
各種トラブルへの対応
- 運営スタッフ 5名
役割：学校体育・校舎施設調整、社会体育施設での合同練習時の施設調整
指導者謝金関連業務、会員相談窓口

主な取組例

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）
運営団体に、責任ある運営・危機管理マニュアルの作成・会員が満足できる活動・保護者の不安解消等の指導・助言・協力を実施
- 実施主体でのトラブル
実施主体（各種目）の状況把握を地域コーディネーターに依頼し、様々な課題に対し、解決に向け市とクラブで協議しながら対応
- 関係団体との協議・調整（スポーツ協会等）
令和8年度の完全実施に向け、指導者が不足している種目の再確認を運営団体である各総合クラブ（地域コーディネーター）に依頼。
不足する種目指導者依頼をスポーツ協会（種目協会）に市と三クラブで直接依頼
- 企業・大学との連携・調整（指導者派遣等）

取組の成果

- 「クラブ組織再編委員会」を設置し、新会費を決定、10数年来協議できなかったクラブ再編の動きが活発化し、令和8年度からは、事務局が統一されることとなった
- 企業・大学との連携ができる目途が立った

今後の取組における課題

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）の発展
今まであった組織を再編することは、各クラブ役員等にも納得のいく説明が大切であり、相当な熱意と労力が必要
- 実施主体での様々な課題
現場で起こる課題に対して、地域コーディネーターが対応しているが、対応する内容、事柄が多い

課題への対応方針

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）の発展
国のスポーツ基本計画、中学校部活動の地域展開等をどのようにしていくのか等、将来を見据えた取組であることを説明
持続可能な運営を目指し、クラブ運営の課題を整理して協議することが大切
今はよいタイミングであることを伝えるための市スポーツ全体ビジョンが必要
- 実施主体での課題解決
令和8年度から、三クラブ事務局が一本化することにより、様々な課題を共有
地域コーディネーターだけでなく、事務局も対応

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 総括コーディネーター
 - ・ 市全体の総括、各クラブ（運営団体）への指導・助言・調整
 - ・ 会議全般総括
協議会、検討会、各コーディネーター会、校長会、学校担当者会
クラブ再編、新会費等調整会議（クラブ組織再編委員会）
 - ・ 関係団体との協議・調整（スポーツ協会等）
 - ・ 企業・大学との連携・調整（指導者派遣等）
 - ・ 市全体関連周知活動、問合せ等対応
- 地域コーディネーター
 - ・ 各クラブ（運営団体）運営、地域・保護者への周知
 - ・ 指導者関連（発掘・育成・調整等）
 - ・ 学校との報告・連絡・相談・調整

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 「クラブ組織再編委員会」を開催し、クラブ一本化の動きを加速
 - ・ 令和8年度より三クラブの事務局を一本化
 - ・ 事務・手続き等を協力して取組める体制を整備
 - ・ 実施主体で起こる様々な課題に対し、事務局も協力し、迅速に対応
 - ・ コミュニケーションアプリを採用し、クラブと指導者間の連絡・調整、参加者の出欠確認、活動場所の変更、運営団体と会員（保護者・中学生）との連絡・コミュニケーション力のアップ

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 令和8年度完全実施に向け、市とクラブで運営・指導者手引きを作成中
- 指導者の質の保障
公認指導者資格取得支援（鯖江市）
- 運営団体
3つの総合型地域スポーツクラブは登録団体（JSPO）
クラブ再編後、法人クラブで認定団体（JSPO）を目指すことをクラブ間で共有（現在1クラブはNPO法人格取得）
※（特非）さばえスポーツクラブ
公認会計士を会計監査・相談役、役員に社会保険労務士を入れ運営

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- トラブル・事故関連責任は、運営団体（総合型地域スポーツクラブ）
令和5年鯖江市方針
- 事故発生時の対応は指導者手引きによる研修において実施予定
（令和7年作成、協議会合意、令和8年度より実施）
 - ・ けがや熱中症等の防止・予防
 - ・ 事故対応・連絡、校舎・体育館等管理
 - ※ 運営団体（クラブ）、実施主体（指導者）
 - ※ コミュニケーションアプリ活用

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者の質の保障
 - ・ 公認指導者資格種目に対し、本市は運営団体（総合型地域スポーツクラブ）に支援。指導者謝金を無資格指導者より1時間200円多く謝金を支給
 - ・ 指導者研修会を開催し、実施主体、運営団体、スポーツ協会、市内高校生が参加し、経験をもとにした選手側の気持ち、指導者側の育成手順、言葉かけ等の話を聞き、質疑応答を行った
 - ・ 中学生、保護者に信頼される地域指導者、持続可能な活動・運営とするため、運営団体と学校が認めた指導者を配置
 - ・ パワハラ等県主催研修会への参加
- 指導者の量の確保
 - ・ 令和8年度完全実施に向け、運営団体に対して指導者不足の確認
 - ・ 不足指導者をスポーツ協会、保護者・企業等に依頼

取組の成果

- 指導者の質の保障
 - ・ 指導者から要望のあった公認資格取得に対応できた（公認・パラスポーツ）令和8年以降も継続。
 - ・ 指導者研修では、地域指導者、高校生から多くの質問があり、選手育成の機運が高まった。
- 指導者の量の確保
 - ・ 保護者で指導してもよいと申し出る方が出てきた。

今後の取組における課題

- 指導者の質の保障
 - ・ 公認指導者資格取得する経費・時間がない等の意見があり、無理に取得するようには依頼できない。
 - ・ ICTを活用しての指導に対し、事前準備・当日準備・終了後の中学生へのアフターケア等に対し懸念を示す意見が多く出た。令和8年度実施により反省点を出すこととなった。
- 指導者の量の確保
 - ・ 関係団体（スポーツ協会の種目協会）に依頼するが、会員不足・高齢化等の諸問題を抱えている状況のところが多い。
 - ・ 指導者で保護者の場合、子どもとともにやめていく方が出てきたことで、持続可能な活動かどうかの議論が出てきた。

課題への対応方針

- 指導者の質の確保
 - ・ 公認指導者資格取得を地道に依頼する
 - ・ ICT活用での指導は、令和8年度実施により反省点を出すこととなった
- 指導者の量の確保
 - ・ 関係団体はもちろんのこと、総合型地域スポーツクラブが持つ地域情報をもとに個別に依頼していく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 企業・大学に指導者派遣等の協議を行った
 - ・ 企業・大学の指導者派遣に関して、令和8年度より前向きに検討する体制が整いつつある（具体内容を企業・大学と協議し、次年度から実施予定）
 - ・ 企業からの指導者派遣が決定した際、市・運営団体・企業での3者協定を締結準備はできたが、企業採用に関し、様々な理由で成功事例がでてこない
 - ・ 大学からは、学生の指導者のサポート派遣での単位制の確約を取り、次年度より配置予定・企業・大学の指導者派遣等は、互いのメリットを協議し、企画していくことが必要

指導者研修の内容

研修名	子どもたちの個性と成長を育む
講師	阿波野秀幸 (元プロ野球選手、コーチ)
研修内容	野球を通して培った人生観とプロ野球に学ぶジュニア世代の指導で大切なことや、子どもたちのモチベーションをアップさせるコミュニケーション等 参加対象 地域クラブ活動指導者 地域クラブ活動運営団体 スポーツ少年団指導者 高校（地元高校野球部員・指導者）

指導者研修会での質疑応答

- 子どもたちの個性を伸ばし、コミュニケーション能力を上げる方策
 - ・ プロにおいても大切であることが分かり感謝、中学生の指導には更に大切であることを理解したが、どのような言葉かけが子どもに伝わるのか。経験上でよいので教えてほしい
- 少子化以上にスポーツや文化活動をする子どもが減っている。スポーツ・文化を好きになる方法はないものか
 - ・ 子どもには成功体験、それをほめるタイミング、指導者の姿勢等様々な要素が絡み合い成長していく。
 - ・ 指導者は日々子どもの姿、活動に気を配っていくようにすることが大切

●参加者の声

参加者①

市内小中高校の指導者が一同に集まり互いの話を聞くことは有意義であった

参加者②

・ 高校生が質問している姿を見て、野球を小中高校と続け、様々な経験の下、成長している姿を見て、続けることの大切さが改めてわかった

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

めがねのまちさばえ応援プロジェクト 令和6年度ジュニアスポーツ指導者研修会

子どもたちの個性と成長を育む

野球を通して培った人生観とプロ野球に学ぶジュニア世代の指導で大切なことや、子どもたちのモチベーションをアップさせるコミュニケーションなどを伝えます。



講師

阿波野 秀幸氏

プロ野球解説者／元プロ野球投手／元プロ野球コーチ

MAX149キロの直球と伝家の宝刀シンカーを武器に、プロ入団1年目からエースとして活躍した栄光の左腕。大学野球で活躍し、1986年に近鉄に入団。1989年の最多奪三振と最多勝利、悲願のリーグ優勝など球史に鮮烈な記憶を残すとともに「トレンディーエース」と呼ばれて人気を博した。現役引退後は、コーチを歴任。現在は、解説などメディア活動に従事。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

参加対象

- ▶ 鯖江市内総合型地域スポーツクラブ指導者(中学校部活動地域移行関連)
- ▶ 鯖江市内野球スポーツ少年団登録指導者

要事前申込

令和7年3月7日(金) 必着

※ 急遽欠席の場合は申込先にご連絡をお願いします
※ 部活動移行関係者は、講座後に各クラブで協議を開催する予定です

申込問合せ

- ▶ 中学校関連指導者
さばえ SC
鯖江北 CSC
東陽 SC
- ▶ スポーツ少年団(野球)指導者
鯖江市教育委員会
スポーツ少年団事務局

令和7年
3月14日(金) 18:00より受付開始
18:30～

鯖江市曙陽会館
多目的ホール

さばえSDGs推進センター
Sabae SDGs Center

鯖江市教育委員会 鯖江市三クラブ連絡協議会(総合型地域スポーツクラブ)
(一社)日本スポーツSDGs協会 株式会社GAORA こしの部ネットワーク

※出展元：鯖江市教育委員会

令和7年度 指導者研修会

子ども達のモチベーションを引き出す
サポートとコミュニケーション

「そこが知りたかった！」

お悩み解決のヒントが今日ここに！」

はやし しんいちろう

講師：林 慎一郎氏

R5年4月 福井工業大学附属福井高校 勤務
R7年7月 岡山インターハイベスト16(県総体優勝)
R7年12月 ウインターカップ 出場(県予選優勝)

期 日：令和8年3月6日(金) 19:00～

会 場：鯖江市総合体育館 第1研修室

参加料：無 料

経 歴

(競技歴)
北陸高校 1982年3月 卒業 バスケットボール部主将
日本体育大学入学 1982年4月 入学 バスケットボール部
日本体育大学卒業 1986年3月 卒業
福井県立福南養護学校 1986年4月 国体選手

(足羽高校指導歴)
福井県立足羽高校 1989年4月 足羽高校女子バスケットボール部監督 33年勤務
全国高校総体 13年連続29回出場 ベスト8 3回
全国選抜優勝大会 11年連続28回出場 3位・4位各1回 ベスト8 3回
北信越新人大会 14回 優勝
北信越大会 12回 優勝
国民体育大会 3位3回 5位3回

(日本代表指導歴)
U-18・19 アシスタントコーチ(2002～8年)
U-16・17 ヘッドコーチ(2009～16年)
2004年10月 U-18 アジア大会(台北) アシスタントコーチ 4位
2006年 2月 U-18 アジア大会(タイ) アシスタントコーチ 準優勝
2007年 7月 U-19 世界選手権(スロバキア) アシスタントコーチ 12位
2008年10月 U-18 アジア大会(インドネシア) アシスタントコーチ 優勝
2014年10月 U-18 アジア大会(ヨルダン) アシスタントコーチ 準優勝
2009年10月 U-16 第1回アジア大会(インド) ヘッドコーチ 準優勝
2010年 7月 U-17 第1回世界選手権(フランス) ヘッドコーチ 5位
2011年11月 U-16 第2回アジア大会(中国) ヘッドコーチ 優勝
2012年 8月 U-17 第2回世界選手権(オランダ) ヘッドコーチ 4位
(ファイナル4進出)
2016年 7月 U-17 第4回世界選手権(スペイン) ヘッドコーチ 9位

子どものモチベーションを
上げるには？

コミュニケーションの
取り方を教えて！

教えたことが
伝わっているのかな？



申込、問合せ先

特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ
TEL
mail

※出展元：特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

「鯖江市運動・スポーツ推進計画」推進委員会において、令和7年度より公認資格取得、吹奏楽部活動指導員支援を決定。

上限2万円（文化8,000円とし、資格取得後に運営団体より申請）

対象

- ・ 中学校地域クラブ活動指導者（運営団体である総合型地域スポーツクラブ）
スタートコーチ、コーチⅠ、競技別資格、初級パラスポーツ指導員 等
- ・ スポーツ少年団（スポーツ少年団事務局）
スタートコーチ（ジュニア・ユース）
※ JSPO総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団登録統合を視野
- ・ スポーツ推進委員協議会
初級パラスポーツ指導員
※ スポーツ教室、地域クラブ活動等での、障がい者スポーツ、インクルーシブ活動を視野
- ・ 吹奏楽指導者資格取得（全日本吹奏楽指導者協会等）
※ 合唱関連資格取得制度はない（県合唱連盟より）

地域クラブ活動

指導者総数	141人
資格所持指導者数	31人
本年度資格を取得した指導者	令和7年12月現在 0人

平日・休日の一貫指導に関する取組

鯖江市では、学校と地域活動の連携期間（令和3年～6年）、協働期間（令和6年～7年）、融合期間（令和8年～）を設置（令和4年鯖江市在り方針）

令和8年度以降は地域が主体となる活動となり、地域や地域指導者が学校・顧問教員との連携をしていくことを想定

- ・ 令和6年度鯖江市地域クラブ活動推進協議会 決定事項
平日の地域展開活動は、総合的に判断し、様子を見ながら進めていく（持続性、指導者、生徒の生活環境、保護者送迎の負担、家庭負担）
休日の地域クラブ活動が定着していくことを優先する（安心安全な活動、地域指導者の更なる発掘、市民全体への周知）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 令和8年度完全実施に向け、運営団体と指導者配置計画を再度検討し、不足する種目指導者をスポーツ協会（種目協会）に依頼
- 鯖江市PTA連合会総会、学校PTA総会・入学説明会等において概要説明ならびに運営・指導者（サポート含む）での協力依頼
- 事務局一本化に向け、指定管理受託のスポーツ協会に事務所の提供依頼
- 「新しい価値の創出」に向け、公民館の各種講座や関係団体に対し、小中学生の受皿依頼
- 企業（指導者派遣）、大学（指導者サポート）での協議を進めた

取組の成果

- 指導者サポートを申し出る保護者の参画
- スポーツ協会からは、クラブの統合、指定管理の再々委託を受けるだけの力を持ち、持続可能な運営になるよう指導を受け、クラブ一本化の協議を進めることができた
- 企業とは、雇用による指導者派遣（令和7年面接受けたが折り合いが合わず）

大学生の単位取得できる指導サポート
事業を次年度から実施（包括協定）

- 公民館での中学生対象の料理教室
など開催するが、希望者なし
⇒小中学生対象に変更
小学校からの地域環境の見直し

今後の取組における課題

- 指導者依頼について
スポーツ協会（種目協会）からは、高齢化、市種目協会は大会運営が主たる業務であるので指導者派遣は難しいとの回答が多いが、今までの依頼等の経緯も含め、協会という名目ではなく、個人的に協力を得られることがあるので、継続して依頼していく予定である
- 保護者の指導サポート協力は非常にありがたいが、持続可能ではないとの認識を運営団体は危惧している
- 公民館や関係団体から小中学生の受け皿を承諾する団体は多くはない
- 企業指導者派遣では、企業・クラブ・市で形はできたが、若者で指導者を目指す人材がなかなか見つからない
- 大学からの指導者サポート派遣は、今後の大学生へのアプローチを大学とどのようにしていくかの議論が必要

課題への対応方針

- 指導者依頼を関係団体や保護者に、小中学生受け皿依頼を公民館・地域団体に継続して説明し、賛同者・協力者を増やしていく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

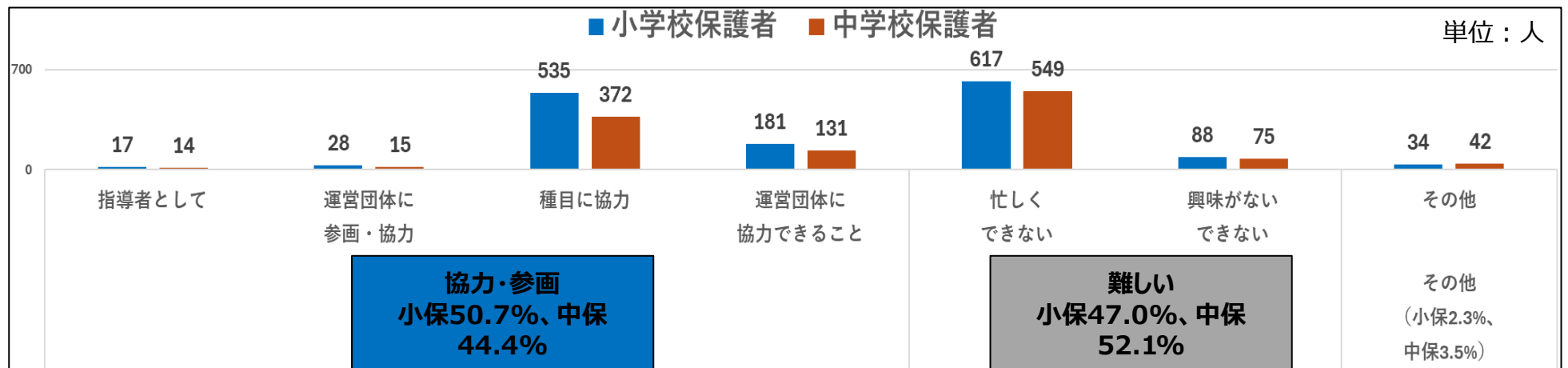
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

令和5年鯖江市保護者（小中）アンケート結果
「休日の地域クラブ活動への協力」



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

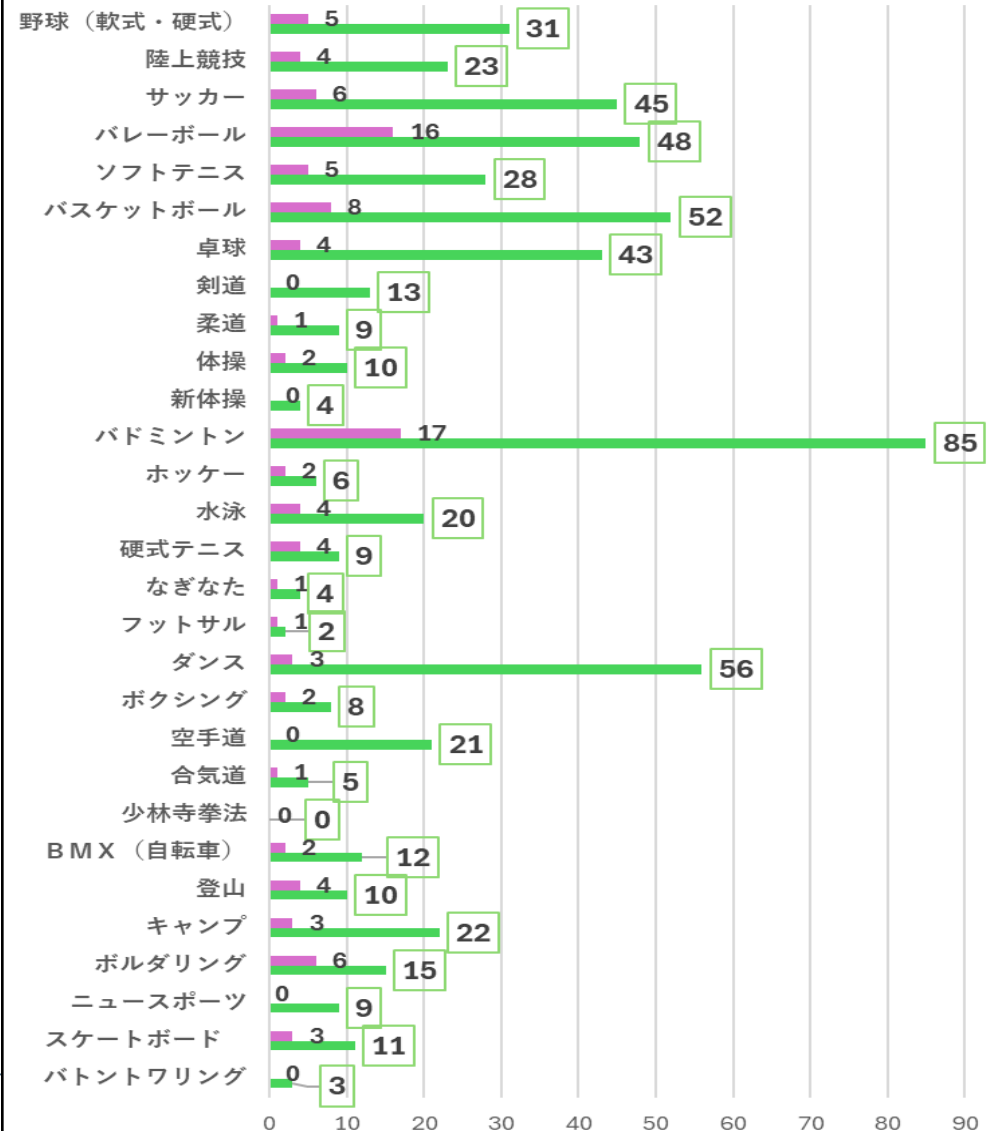
●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

令和6年鯖江市（小中学生）アンケート結果
「休日に自分のやりたいこと（平日とは異なること）は何ですか」

スポーツ

■中学生 ■小学生

単位：人



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

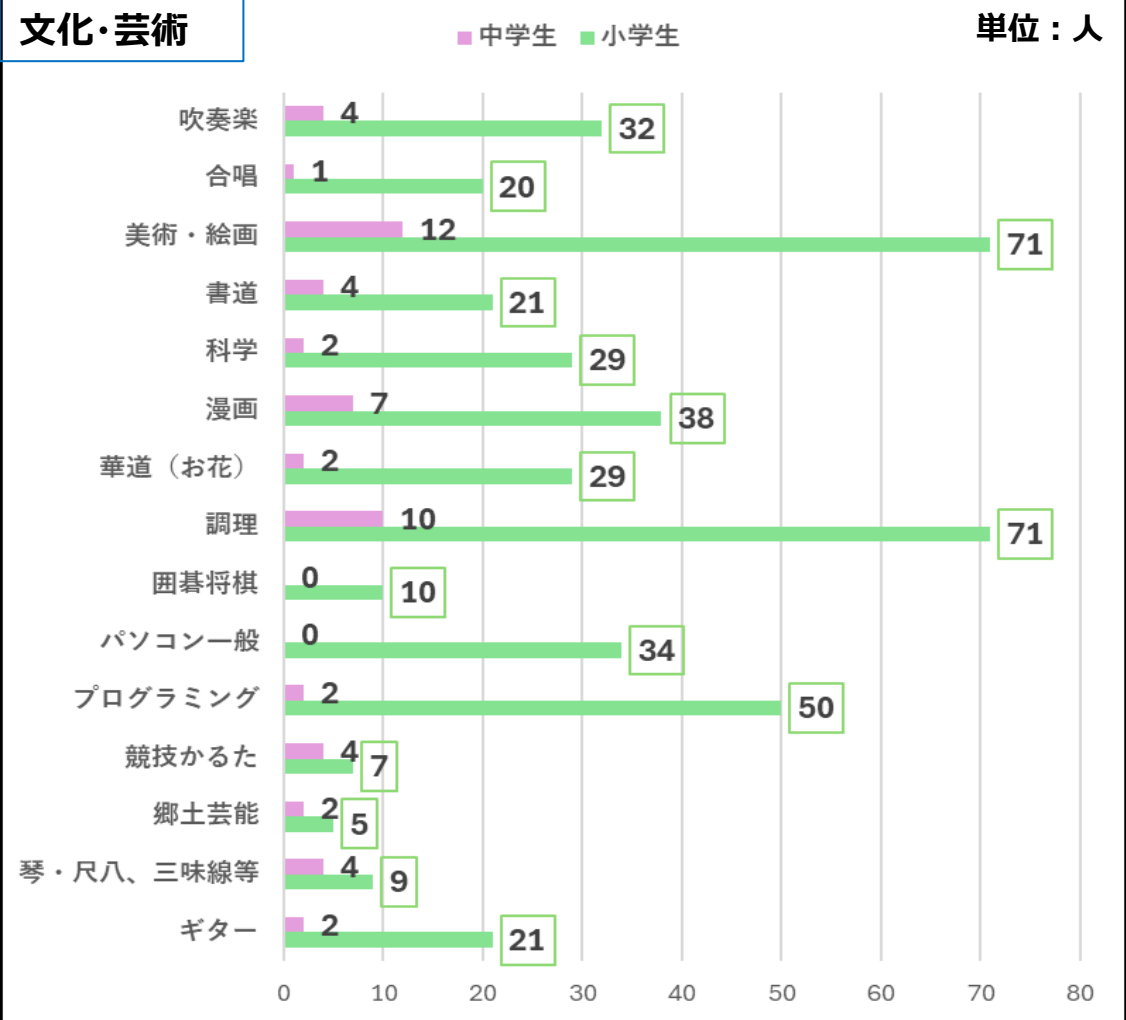


取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

令和6年鯖江市（小中学生）アンケート結果
「休日に自分のやりたいこと（平日とは異なること）は何ですか」

文化・芸術



令和7年公民館において、中学生対象の料理体験教室開催
⇒ 希望者なし、小学生対象に変更

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

地域公共交通との連携に関する取組

鯖江市では、徒歩や自転車で活動できる地域クラブ活動を実践
地域公共交通との連携はしていない

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

スポーツ推進委員は授産施設でのスポーツ教室等を開催実績があり、公認指導者資格取得（初級パラスポーツ）、インクルーシブなスポーツ活動、発展して文化活動のコーディネートの説明・将来像を提示するが、反応は鈍い

まちづくりと連携した取組

- 本市の地域クラブ活動基本方針は、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」意識のもと、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保すること。
- 関係者から小学生からの習慣が必要であるとの意見を踏まえ、小中学生の受け皿となる地域団体を募集。
- 「新たな価値の創出」にむけ、市内関係団体に地域クラブ活動の概要を説明。
- 受け皿を希望・興味のある団体と最終調整し、ホームページ掲載ならびに小中学校から保護者に周知依頼。
- 鯖江市NPOセンター所属する各種団体に説明し、受け皿団体を募集
 - ・ボランティア活動
 - 福井県動物愛護センター
 - 保護動物の飼育管理
 - 犬猫譲渡会(適正飼育講習含む)開催、啓発イベントの開催等
 - ・調整中の団体
 - ・その他加盟団体のイベントを紹介を協議中
- 地域関連団体に説明会を実施し、受け皿団体を募集
 - ・教室・サークル（公民館関連団体）
 - 文化芸術関係（民謡、浄瑠璃、伝統文化（ゆかた等））
 - 運動・スポーツ関係（体操、スポーツ等での世代間交流）
 - ・教室（市施設）
 - 吹奏楽クラブ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

地域でのパラスポーツ活動拡充イメージ

鯖江市スポーツ推進委員協議会常任委員会 提示資料

インクルーシブ スポーツの推進

1. 知る・探る・場をつくる

地域に出向き、地域の実態を知り、活動場所をつくる

- 必要な活動、生み出したい活動は何か
- 将来の活動をイメージ
- 活動に必要な地域の団体・人材を引き込む

体験会・イベント

2. 地域でつながる

活動が継続できる形を作る

- 地域が主体（やりたいことを生む）
- つながる（連携）
- 育てる（指導者・参加者・支援者）
- 活動のニーズを生み出す

スポーツ教室

3. 定着する

地域での活動定着

- 新たな活動へつながる

クラブ・サークル
地域活動への参加

推進委員

資格取得、計画、コーディネート
・初級パラスポーツ指導者資格取得
・計画作成（年次計画）
・障がい者施設担当者、関係者と協議準備、場所、活動での配慮等
協力者（支援者）関連等

広報・実践・PDCA・コーディネート
・広報（活動、参加者・支援者募集）
・体験会、出前講座、教室開催
・PDCA
・協力者（支援者等）育成
・受け皿発掘

コーディネート
地域での持続可能な活動に向けて
・受け皿へのバトンタッチ
・受け皿への協力

健常者と障がい者の交流の場
スポーツを通じたインクルーシブ活動

（参考資料）みんなのスポーツ【パラスポーツ共生社会】日本パラスポーツ協会 佐藤雄太氏

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 中学校区の総合型地域スポーツクラブは、地域クラブ活動では、会員となった中学生が市内のどこのクラブにも参加できるよう、同一の保険に加入
- 運営団体である総合型地域スポーツクラブは、理念に賛同すれば、市外中学生の受け入れも可としており、他市町中学生も入会し活動している
- 鯖江市としても、運営団体の意向を優先している

課題への対応方針

- 他市町との連携は、県が主体となり進める体制が必要
- 現在の鯖江市の取組
市内中学生には現状のまま実施していけばよいとの考え
鯖江市では実施しているが、近隣町では活動していない種目に関しては、柔軟な考え方が必要（鯖江市協議会決定）

取組の成果

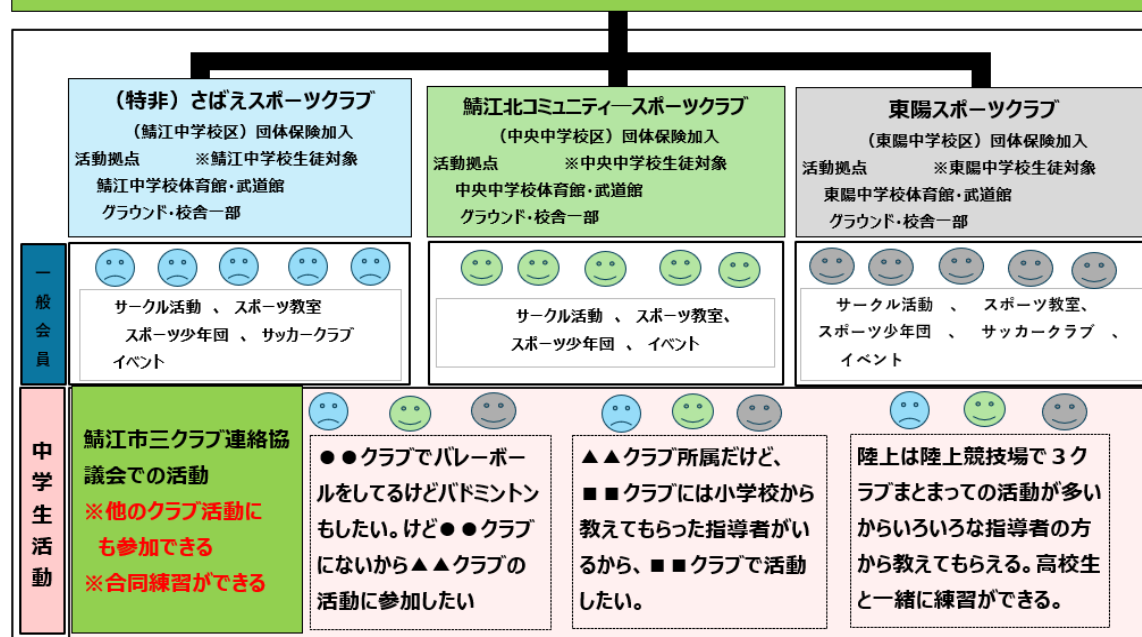
- 鯖江市内中学生（右図）
 - ・ 市内スポーツ施設を三クラブ合同で活動できるようになった
 - ・ 所属するクラブにない種目に参加できるようになった
 - ・ 教えてほしい指導者の所にいけるようになった
- 鯖江市外中学生
 - ・ 自分のやりたい種目に参加

今後の取組における課題

- 合同練習では、拠点施設で小中高生指導者が一体となり指導できる環境が整いつつある（陸上）
- 鯖江市外の中学生の活動に対して、他市町との協議はしていない。
- 行政支援が行われている活動であり、他市町中学生の参加を認めてよいのかとの意見が出始めている
ただ、鯖江市内の中学生も他市町地域クラブ活動に参加しており、他市町でも同様の事案が出ていることを伝えている

※次項に拡大図有

鯖江市三クラブ連絡協議会での保険加入



- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 鯖江北コミュニティスポーツクラブ
 - ・ BMX、パルクール体験イベント開催
募集は小中学生
- 東陽スポーツクラブ
 - ・ イベント開催「ウォーターフェス」
 - ・ 東陽中学校区の公民館と協力し、中学生が企画したイベントを開催

取組の成果

- BMX、パルクール体験会
市内小中学生保護者に案内し、運営団体の活動をアピールできた
総数100名市内外小学生が参加（市内10名）、今後継続開催も含め協議
- ウォーターフェス
中学生企画を運営団体と公民館で実施することができ、両者の関係が深まった
地域の人や保護者からの協力・支援が多く集まった

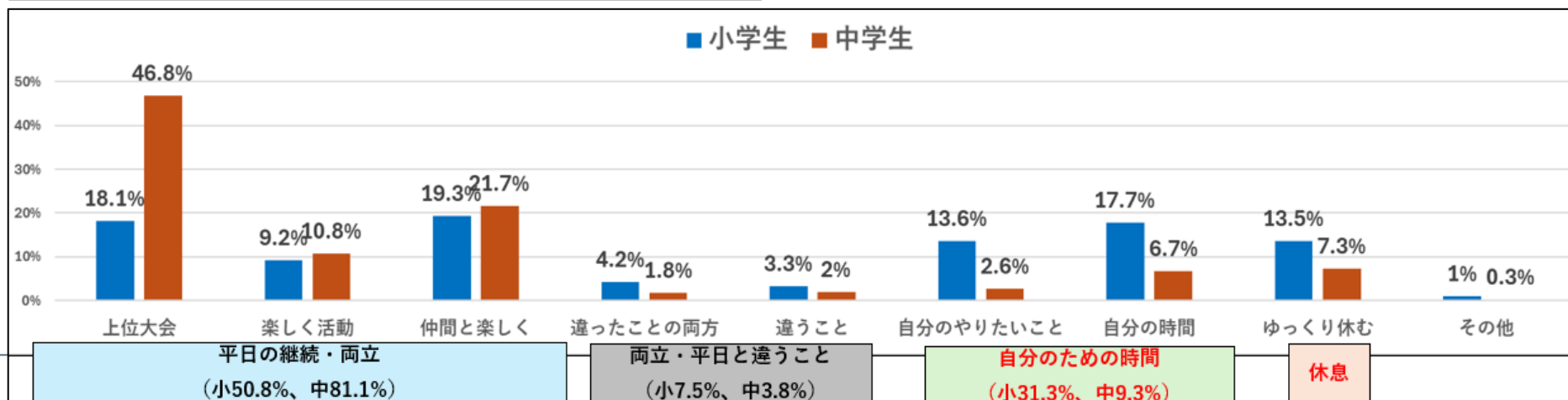
今後の取組における課題

- ・ 中学生が様々な活動やイベントに参加する手段・方法・定着

課題への対応方針

- アンケート結果では、中学生は平日の活動の継続を希望することが多く、平日の活動を絡めたイベント開催を模索
- 小学校時の様々な体験を通して、中学生活動となることを想定し、新たなイベントを継続することにより、中学生の生活が徐々に変化していくと捉えていた長期ビジョンが必要

令和6年鯖江市（小中学生）アンケート結果 「休日の過ごし方」



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

○ BMX、パルクール体験会の様子



○ ウォーターフェスの様子



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 生活困窮者への支援
 - ・鯖江市では、総合型地域スポーツクラブ設立時より、生活困窮家庭への支援の議論をしていた。ただ、個人情報取扱、困窮家庭の線引き、事務手続き等のハードルが高く見送った経緯があり、現在に至る
 - ・令和5年度より、休日は地域クラブ活動への参加を促したことから、教育委員会において、生活困窮家庭を準要保護家庭として支援
- 事務連携
 - ・教育委員会：準要保護家庭調査、該当家庭決定
 - ・学校：家庭状況調査（年収、兄弟、家庭環境等）
 - ・運営団体（SC）：登録生徒一覧を学校に提出

取組の成果

- 学校部活動の地域展開の影響で生活困窮家庭の子どもが地域クラブ活動に参加できないことを防ぎ、行政・地域・学校で支えていく体制を構築することができた
- 学校からの支給となり、個人情報を守られ、感謝の意を述べる保護者が出てきた

今後の取組における課題

- 令和8年度より新会費での活動となる。困窮家庭への支援額を協議会にて決定
令和5年～ 準要保護家庭支援 22,000円
令和8年～ 準要保護家庭支援 24,800円（上限）※認定クラブ所属

課題への対応方針

- 令和8年より本格実施するにあたり、新しい会費での実践
- 困窮家庭への支給額・支援は会費・保険料に合わせる（協議会決定事項）

準要保護家庭支援

※次項に拡大図有

準要保護生徒援助費について（中学校）				
区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
学校給食費		実費 (学校報告に基づく)		
修学旅行費		実費 (学校報告に基づく)		
	市単独予算	7,000		
校外活動費	宿泊なし	2,310		
	宿泊あり	6,210		
学用品購入費		22,730		
新入学学用品等費	1年生	60,000		63,000
通学用品費	1年生除く	2,270		
PTA会費		4,260		
自転車保険加入費			1,500	
医療費		実費 (学校報告に基づく)		
通学費		実費 (学校報告に基づく)		
地域スポーツクラブ加入費				22,000

認定クラブ所属
令和8年～24,800円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

準要保護家庭支援

準要保護生徒援助費について（中学校）

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
学校給食費		実費 (学校報告に基づく)		
修学旅行費		実費 (学校報告に基づく)		
	市単独予算	7,000		
校外活動費	宿泊なし	2,310		
	宿泊あり	6,210		
学用品購入費		22,730		
新入学学用品等費	1年生	60,000		63,000
通学用品費	1年生除く	2,270		
PTA会費		4,260		
自転車保険加入費			1,500	
医療費		実費 (学校報告に基づく)		
通学費		実費 (学校報告に基づく)		
地域スポーツクラブ加入費				22,000

認定クラブ所属
令和8年～24,800円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○ 鯖江市PTA連合会総会にて説明

・大会・コンクール出場に対する支援を継続
・文化部備品購入支援（楽器購入）を継続
・PTA会費（部活動関連）見直しを学校長に依頼

令和7年鯖江市PTA連合会総会説明資料

※次項に拡大図有



令和8年度～休日の学校部活動は 地域クラブ活動完全実施となります

地域クラブ活動⇒休日の活動は、子どもたちの選択、保護者の責任増
鯖江市地域クラブ推進協議会(大学・PTA・学校・スポーツ・文化関係者)

- ・中学校区にある総合型地域スポーツクラブが運営主体
- ・休日の中学校施設を中心に活動 ⇒ 子どもが主役
- ※徒歩や自転車で気軽に安心して活動できる環境

併存期間(R5～7年度：学校と地域が連携・協働する準備期間)

- ・会員からの会費と行政支援(国・県・市)で運営
- ・指導者：地域から発掘、休日も継続してやりたい先生
- ・指導者へは謝金
- ・地区公民館にある既存団体に、子どもたちとの活動を依頼

完全実施(R8～：地域が主体で取り組み学校と連携する)

- ・新会費での実施、三クラブの再編(市民に認められる組織)
(学識経験者・市教委・三クラブ・学校の委員で協議中)
- ・子どもたちの様々な志向に対応できる環境の整備
- ・様々な交流の場を発掘(地域・市内・公民館、同世代・異世代)

市教委 …中体連大会(県・ブロック・全国)支援を継続
コンクール(北陸・全国)、文化部備品購入支援を継続
各中学校…PTA会費の見直し

※休日の協会主催大会・練習試合等バス経費

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

令和7年鯖江市PTA連合会総会説明資料

【地域クラブ活動ってどんなこと？】

もっと上達したい！

チャレンジしよう

休日は地域クラブへ行こう！

鯖江市では、総括コーディネーター、各クラブに1名の地域コーディネーター、文化コーディネーターを設置し、行政・学校・クラブが連携し、平日は部活動、休日は地域クラブ活動ができる環境整備を進めています。

1 指導者が技術面でサポート

地域指導者が自らの経験ノウハウをもとに、技術を教えてくれるよ。

2 クラブ加入は任意

クラブ活動はやりたい子が来るというのが基本。地域クラブ活動は年間を通しての活動です。

3 総合型地域スポーツクラブでは選んだ種目参加のほかにイベントや特典もあるよ。

合同練習やイベント

3クラブでの合同練習などにも参加可能。今秋には楽しいイベントも企画予定です！

流れは

会員登録

自分の学校のスポーツクラブにご入会ください。各クラブの受付窓口で手続きをお願いします。

参加する種目選び

自分の学校にある種目のほか、参加したい種目が校区外のクラブにある場合はご相談下さい。

クラブを楽しもう

参加する種目以外に、様々な企画を年度途中より開催できるよう準備中です。ホームページ等をみて下さいね。

参加費

詳しくは下記の各校区クラブにお問い合わせください
 (クラブでは、指導者として関わって下さる方を探しています。お気軽にご連絡ください。)

年会費：個人6,000円 保険料：800円(必須)

鯖江市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

さばえスポーツクラブ 鯖江中学校区

鯖江北コミュニティスポーツクラブ 中央中学校区

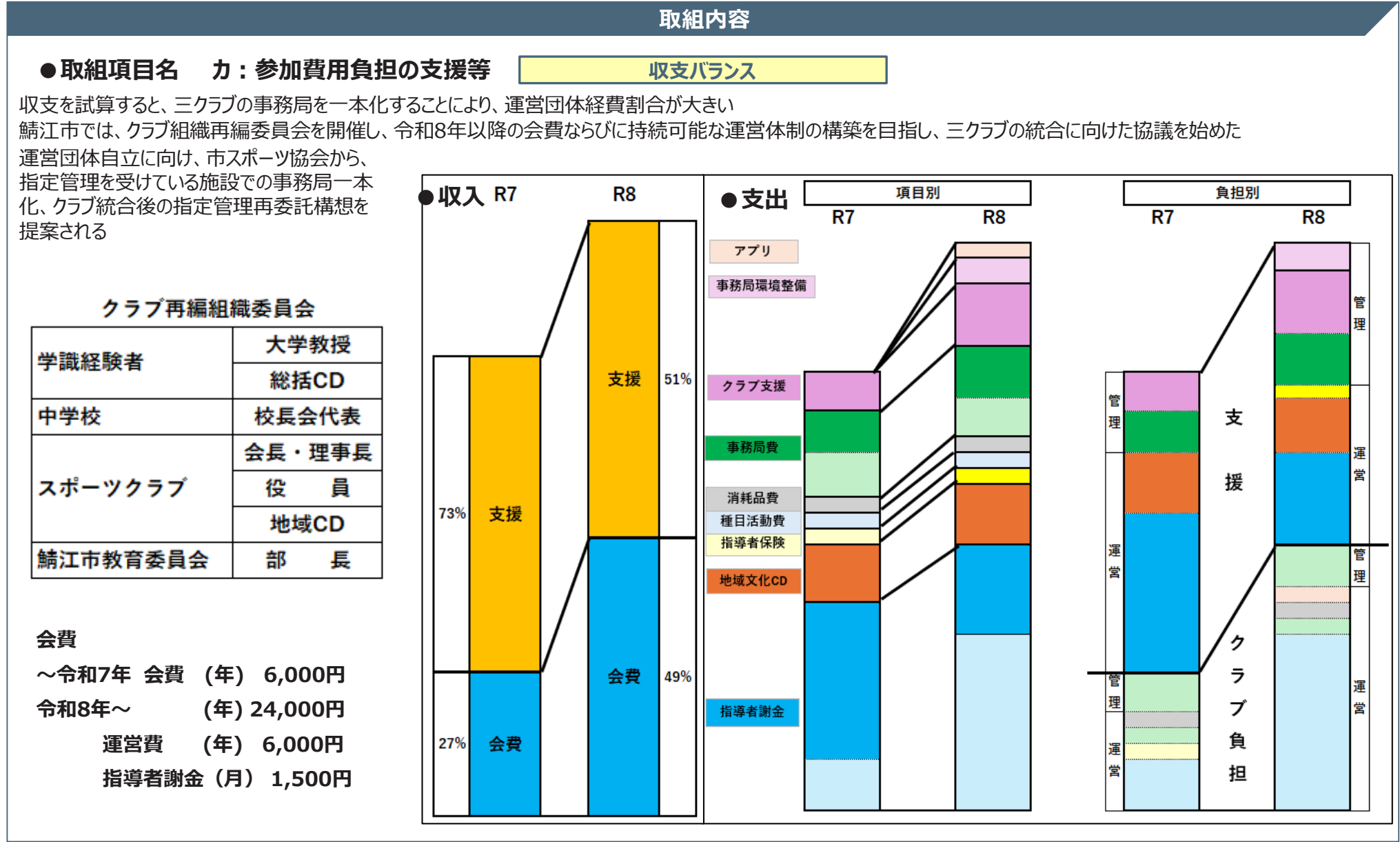
東陽スポーツクラブ 東陽中学校区

「3の部活動地域移行について 鯖江市の取組み」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



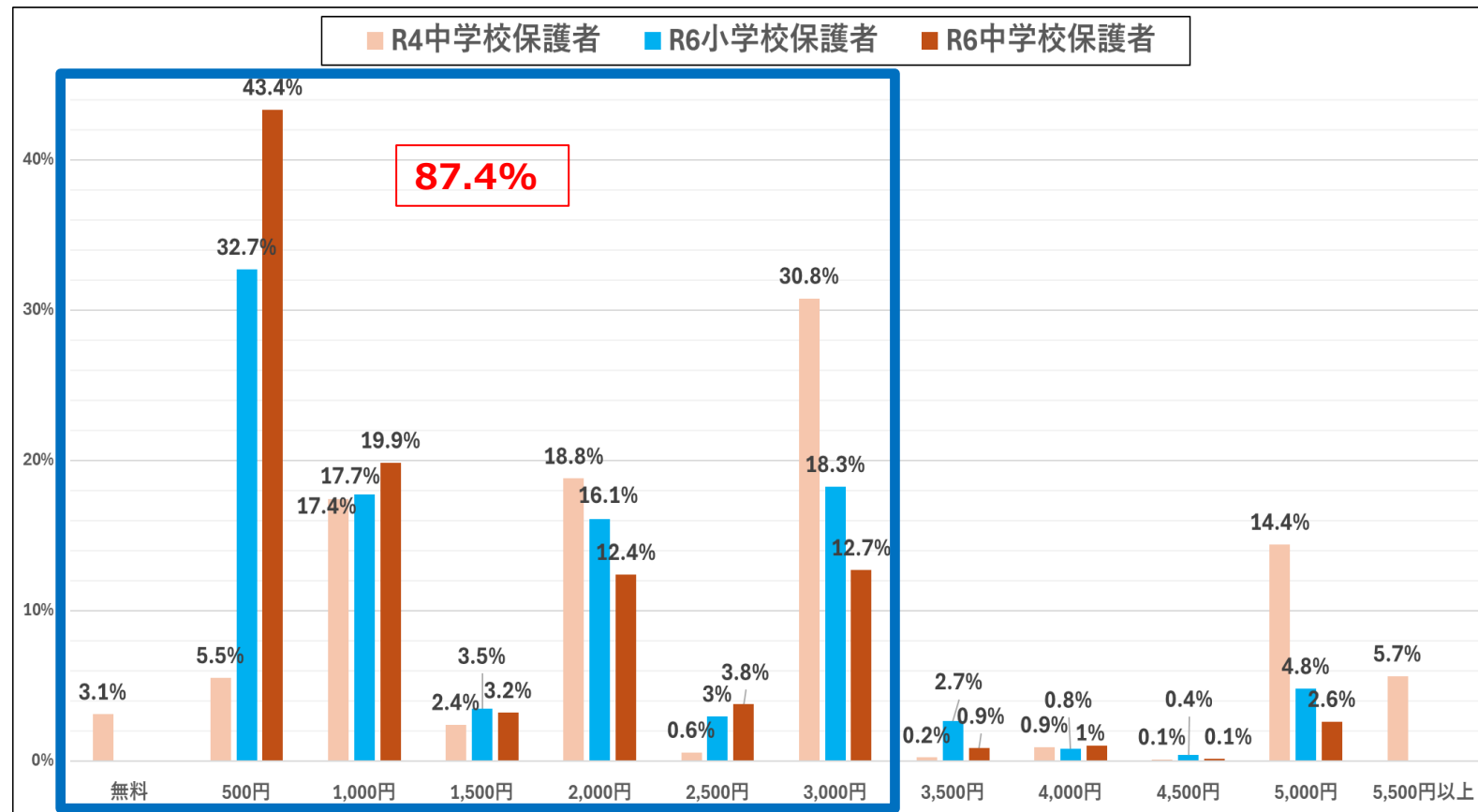
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

クラブ組織再編委員会で、クラブ運営と保護者アンケート結果、(国)調査研究協力者会議の進捗状況、結果をもとに決定

令和4年・6年鯖江市 小中保護者アンケート結果 月会費の金額



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

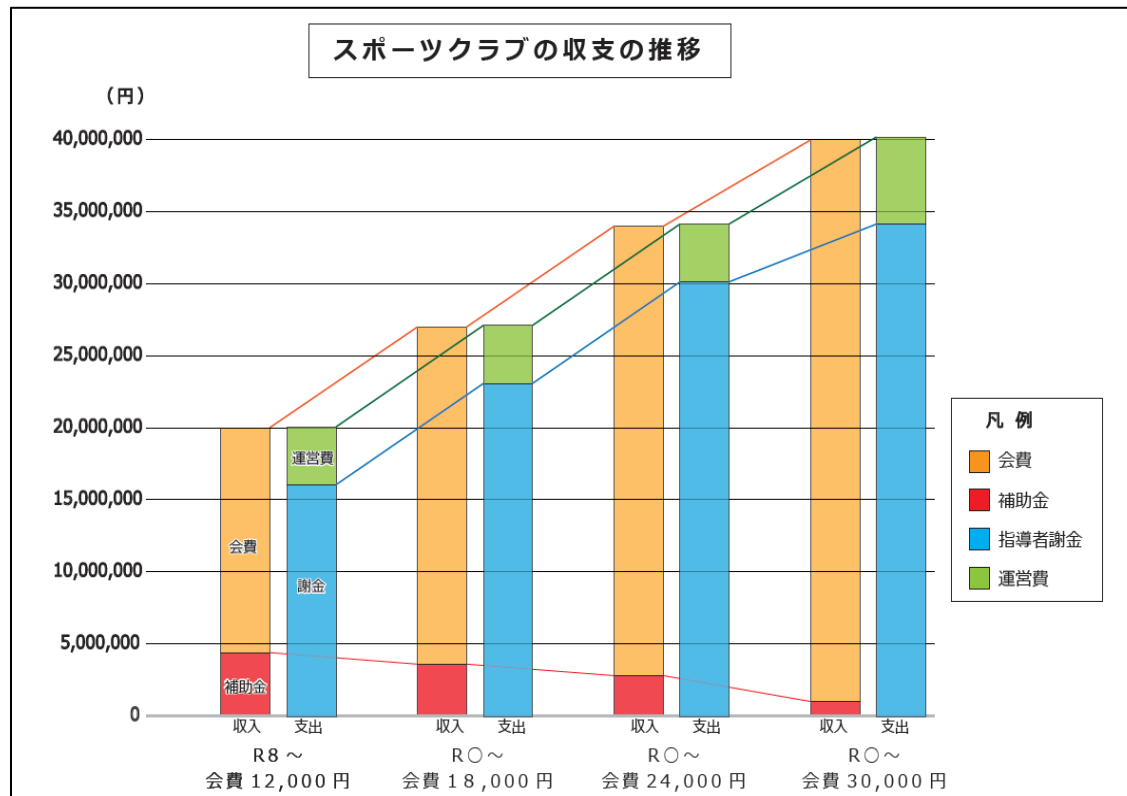
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

令和7年鯖江市クラブ組織再編委員会 会費関連資料



クラブ再編委員会で令和8年度会費は、

当初、年会費18,000円で決定 ⇒ 最低賃金上昇・他市町との整合性による指導者謝金値上げ（1h 1,200円⇒1,600円）、事務局一本化（将来は統合）

（国）調査研究協力者会議の動向を踏まえ、クラブ再編委員会を経て、協議会にて、運営費（年）6,000円、指導者謝金（月）1,500円 年24,000円で決定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 地域クラブ活動方針（令和4年）
 - ・ 運営団体を中学校区の総合型地域スポーツクラブ、活動場所は、中学生が徒歩や自転車で通えるよう、市内各中学校施設、市内スポーツ施設としている
- 「鯖江市運動・スポーツ推進計画」推進委員会（令和6年）
 - ・ 学校管理規則、学校開放規則の見直し⇒市内連携により可能（規則見直し無）
 - ・ 市スポーツ施設を土曜日午前中は地域クラブ活動独占使用（陸上小中高校生）
- 学校施設にスマートロックを設置し、中学校区の総合型地域スポーツクラブに休日と夜の施設運用・管理を依頼
- 校舎を利用する文化活動（吹奏楽・合唱）、スポーツ関連種目の更衣室、外競技の雨天時の避難等の場所の提供を目的に校舎内シャッターを設置

取組の成果

- 休日の中学校施設は地域クラブ優先での利用が可能となった
- 休日に小中高校生が指導者の下、練習することができるようになった
- スマートロックの採用で、管理者、利用者の手間が大きく削減できた
- 校舎内シャッター設置により、校舎内の利用区分が設けられ、指導計画が立てやすくなった（吹奏楽指導者）

今後の取組における課題

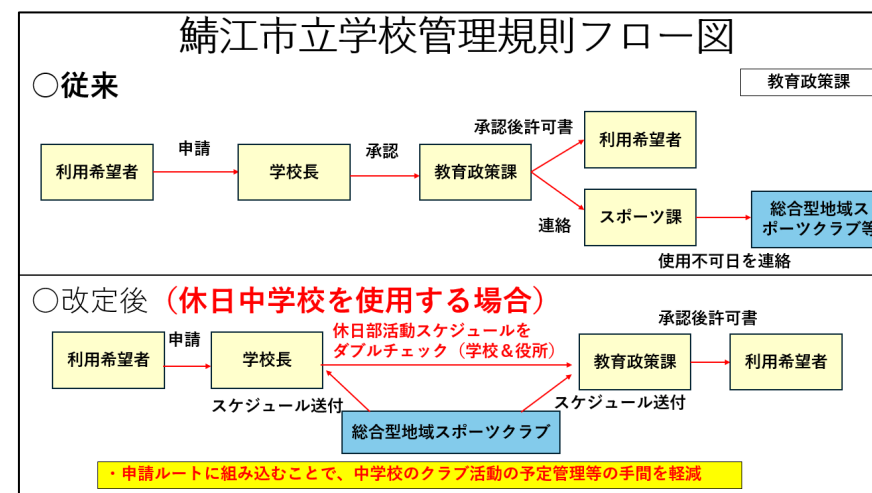
校舎内シャッターでは、学校側で金曜日のシャッター・教室施錠、月曜日のシャッター・教室開錠等の手間が増え、機能的な取組を学校が行う必要

課題への対応方針

スマートロック、校舎内シャッター使用は、令和8年度に完全実施とし、学校と調整している
今年度中に、学校側の機能的な対応を依頼中

参考資料

鯖江市運動・スポーツ推進計画 推進委員会資料 ※次項に拡大図有



陸上競技場

土曜日は、市内外高校生・大学・一般が利用し、小中学生にとって危険な状況⇒土曜日午前中は市内総合型地域スポーツクラブの活動で独占
市内高校も賛同し参加、小中高校生での交流
陸上を継続する子供が増えることに期待

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

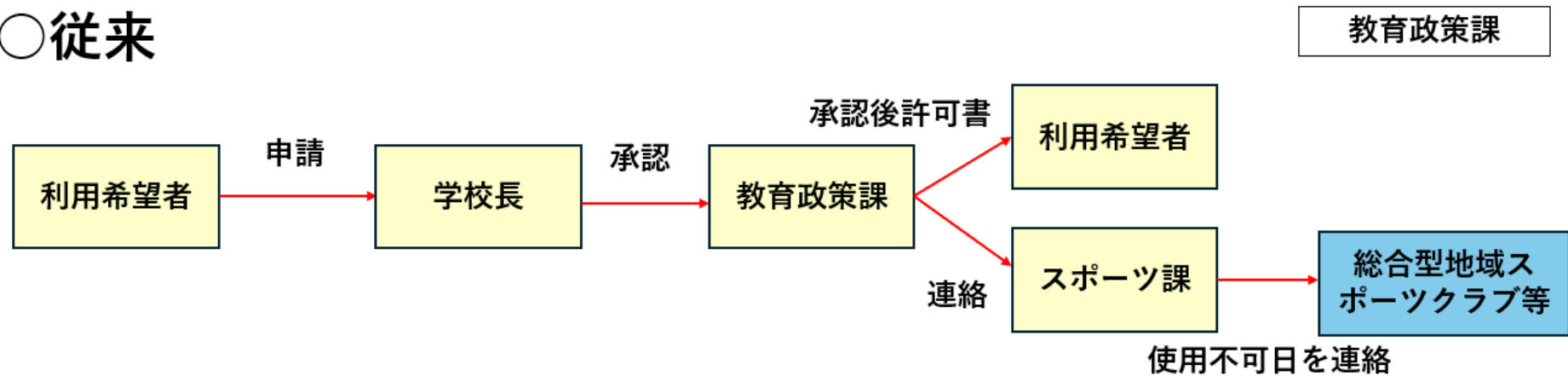


取組内容

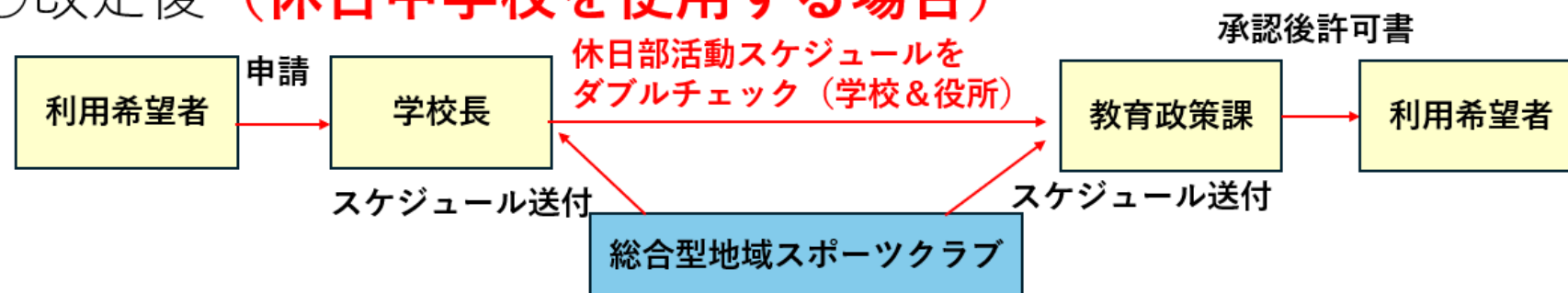
鯖江市運動・スポーツ推進計画 推進委員会資料

鯖江市立学校管理規則フロー図

○従来



○改定後（休日中学校を使用する場合）



・申請ルートに組み込むことで、中学校のクラブ活動の予定管理等の手間を軽減

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：**学校施設の活用等**
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- スマートロックの導入（令和6年度スポーツ庁報告書掲載）、校舎内シャッター設置（令和6年度文化庁報告書掲載）、利用者・管理者にとって利便性のある活用
・予約者に番号配布、予約者（責任者）以外は使用できない
・キーボックス等による鍵の受け渡し
・ICT活用による日誌作成・提出

用具使用・管理等における取組

- 運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）発足時、中学校施設を拠点とし活動
 - ・夜間学校施設（体育館・武道館）利用
 - ・夜間照明施設、用具保管の外倉庫の利用
- 用具使用
 - ・鯖江市教育委員会・学校・運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）の三者による協定により、学校備品等の活用による破損時の責任を明確にして活動を実施（令和6年度協議会にて決議）
 - ・運営団体である中学校区の総合型地域スポーツクラブは、物損時に補償できる団体保険加入（賠償責任補償含む）
※破損には経年劣化が原因も予想されるため、教育委員会が間に入ることを追記
- 用具保管
 - ・体育館内の用具に関しては、学校側・クラブ側で使用してほしくない物品に関しては原則施錠

令和6年協議会決定事項

「学校備品・物品等の使用」について 三者による申し合わせ事項の締結

締結概要：中学校体育館・武道館・校舎（学校施設開放）の使用
および物品使用

三者：教育委員会、各学校、各スポーツクラブ
内容：

【学校施設】

休日・平日夜の使用に関しては責任をスポーツクラブが負う

【物品等の使用】

スポーツクラブは、教育委員会、学校が所有する備品・物品等
を使用できる

学校は、スポーツクラブが所有する物品を使用できる
破損等の場合、使用責任者が責任を負う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 平日の地域クラブ活動 ・令和6年度末協議会
- 企業・大学と指導者派遣について

取組の成果

- 企業：指導者雇用による派遣ができる体制を構築
平日の指導者派遣も可
運営団体が推薦する指導者を企業が面接
職場見学・面接を受けたが、現職場との比較により断念
⇒ 運営団体は該当者を模索
- 大学生の単位取得ができる指導者サポート派遣、市と大学での包括協定をもとに令和8年から活動

今後の取組における課題

- 平日活動について
 - ・ 活動
夕方以降の活動となり、中学生の生活習慣に課題
 - ・ 指導者
課題が多く、人材不足であることから、企業からの人材派遣を中心に取組むこととする
 - ・ 負担
保護者の経費・送迎負担

課題への対応方針

- 休日活動を定着させ、平日活動について試しの活動等、モデル的な活動ならびに関係者との協議を進める等、段階を持つての取組

令和6年協議会決定事項

令和7年度は休日の活動 → 最終年度

指導者：地域指導者の発掘、周知：市民全体への周知

平日の地域展開 → 様子を見ながら進める
休日の活動を定着することを優先

持続性：持続可能な活動となる根拠が乏しい（指導者・送迎・子どもへの影響・家庭負担等）

指導者：平日の平時に指導できる指導者が鯖江市にどのくらいいるのか

送迎：子どもの送迎が可能な家庭はどのくらいいるのか

鯖江市は共働きの家庭が多く、夕方から夜の活動に子どもの送迎ができるのか

生徒影響：中学生の生活習慣、子どもの健全育成への影響

取り組む中学生の減少（現在：スポ少加入児童の減少）

平日の平時に活動することは難しいため、夕方から夜に活動することによる影響はないのか

家庭負担：保護者負担が増える可能性大

休日活動で指導者謝金制度を整えるにあたり、平日にも適用した場合の保護者負担

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 ※計画書記載の休日の小中高校生の活動は、エ：面的・広域的な取組に記載

取組事項

- クラブ組織再編委員会
 - ・ 地域クラブ活動の事務効率化協議
⇒ 三クラブ事務局の統合（令和8年～）
 - ・ 会員主体（まちづくり）、持続可能な運営（管理費負担の軽減）を協議
⇒ 三クラブの統合に合意（協議の継続）
市全体の動きにしてい
子どもから高齢者・障がい者対象
賛助金の獲得
体育館指定管理を受託できる基盤強化

取組の成果

- ・ 3クラブ設立から約20年が経つ中で、同じテーブルに立って組織再編の協議をすることができ、それぞれの取組を尊重しながら、合意に持ち込むことができた
- ・ 中学校部活動の地域展開を機会に、生涯スポーツ関連の協議も同時にすることができるようになった

今後の取組における課題

- クラブ統合
 - ・ 各クラブは総論賛成を得たが、各論では様々な意見が出てきており、調整等を市の関係課が多く関わる必要がある
 - ・ クラブ統合のリーダーシップが取れる人材が必要
 - ・ 統合に向けた計画作成

課題への対応方針

【鯖江市】

- ・ 鯖江市の生涯学習・スポーツ推進にとって、非常に大きな変革の一つと捉え、計画・予算・庁内連携等を今後進めていく
- ・ 担当職員のみでの取組から、担当課職員で役割分担をして推進を図る
- ・ 「鯖江市運動・スポーツ推進計画」の見直しがあり、子どもから高齢者・障がい者まで幅広い取組が推進できる体制づくりを進める
- ・ 新たな価値の創出に向け、様々な団体が子どもから高齢者が活動できる場を共有できる環境を整備

【運営団体（中学校区総合型地域スポーツクラブ）】

- ・ 効率的な運営ができるよう、運営団体である、三つの総合型地域スポーツクラブの事務局を一本化する（さばえジュニアクラブ）
- ・ 三つの総合型地域スポーツクラブが、本市全体のスポーツによるまちづくりができるよう、三クラブ統合に向け、具体の協議を実施
- ・ 指導者研修の充実・登録
- ・ アプリ等を活用した、会員への情報発信や状況の掌握

【実施主体】

- ・ ガイドラインに沿った活動となるよう指導・助言

【地域団体】

- ・ 地域クラブ活動を基本とした、世代交流など新たな価値の創出に向け、理解を深め協力できる団体を増やせるよう周知・説明

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

ア) 運営団体の整備

○ クラブ再編

鯖江市にある中学校区の総合型地域スポーツクラブでは、それぞれの活動には意義はあるものの、運営・マネジメントにはそれぞれ懸念があり、連携・統合の話がなかなかできなかった。中学校部活動の地域展開を機会に「クラブ再編組織再編委員会」を立ち上げ、協議する場も多くなり、持続可能な運営をすることが協議され、令和8年より将来の統合に向け、事務局の一本化、統合に向け話を進めることとなった。今後、鯖江市全体で中学校部活動の地域展開、生涯スポーツの推進、企業協賛等を募ることができ、運営基盤の安定化を図ることができる。

○ 組織、関係者の団結

協議会、検討会（運営団体・学校）、コーディネーター会、中学校長会、（学校）地域クラブ担当者会等地域クラブ関係者の会議を単独または合同で開催し、地域と学校が情報共有できる場を多く持ち、連携できるよう心掛けた。議論時の様々な意見により、進まなくなることもあったが、中学生が違和感なく参加し、満足できる活動の基本路線に戻ることに、協議内容を進めることができた。

○ 保険の加入（個人：スポーツ安全保険、団体：保険）

ケガ等だけでなく、個人賠償責任対応のため、個人のスポーツ安全保険加入を義務化

運営団体には団体としての責任、ケガ、団体賠償責任、物品等破損への保障等への対応のため団体保険に加入

なお、物品等借用に関しては、鯖江市・学校・運営団体で協定書を締結し、学校備品、クラブ備品を両方が使用できる体制を構築した。

イ) 指導者の質の保障と量の確保

○ 指導者派遣、サポート

関係団体には指導者発掘や派遣依頼等は常にしていたが、人材確保がなかなかできなかった。企業から、指導者派遣の協力についての話があり、運営団体と連携の下、話を進めることができ、企業面接を受ける若者が出てきた。

大学との協議で、指導者派遣は難しいとの話であったが、指導者をサポートすることならできないかとの話となり、次年度よりサポート事業を立ち上げることができた。教育関連大学では、サポート事業で単位取得も可能かどうかを協議していただけることとなり、将来の指導者候補を発掘できる機会ができるのではないかと期待している。

ウ) 関係団体との連携、オ) 内容の充実

○ 新たな価値の創出

例年、地区体育大会での中学生企画・運営協力等を実施しているため、中学生参加に地域は前向きである。

今年度、公民館において、中学生企画によるイベントは様々な協力もあり多くの小学生が参加して実施することができた。ただ、中学生のニーズ調査で多かった料理教室で募集したが中学生希望者はなく、小学生に変更する等の対応をした。

アーバンスポーツ（パルクール・BMX）体験活動を実施し、総計100名ほどの参加があった。鯖江市内小中学生保護者全員に案内はしたが、小学生10名程度の参加であった。開催するにあたり、市内参加状況により定期開催も視野に入れていたが、人数が少なかったこと、市内参加者も興味を示す方がほとんどなかったことから、今後の開催は様子を見て取組むこととなった。

●総括 イ) 指導者の確保 ウ) 関係団体との連携

企業との連携（令和7年鯖江市協議会説明資料）

水ingグループとの連携（協議終了、該当者模索中）

- 水ingAM（鯖江市から委託を受けている全国規模の会社）
 - ・地域の優秀な人材確保、若者就職希望者の確保、地域貢献（鯖江市）
⇒ **指導者を正社員雇用**として受入れ
- 雇用形態
 - 指導時間も勤務とみなす（派遣勤務）
 - 平日 午前は、水ingAMで勤務
 午後は、社員による地域展開での指導（水ingからクラブへ派遣）
 - 休日 地域展開での指導（月曜日振替休など）
- ・（国）総合的なガイドライン（民間企業として参画）
雇用形態について検討を進めている。鯖江市と水ing、互いにメリットがある。
- 鯖江市
 - ・スポーツクラブから推薦 ⇒ 面接 ⇒ 現在、悩んでいる
 - ・実現したなら三者（市・クラブ・水ing）協定を締結予定

2.実証内容と成果③

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括 イ) 指導者の確保 ウ) 関係団体との連携

令和8年より実践予定

大学との連携（令和7年鯖江市協議会説明資料）

大学生指導者サポート（鯖江市と大学 包括的連携協定）

- ・以前より、福井大学に指導者として学生に関わって貰えないか要請（鯖江市）
- ・大学側から、学生が指導するにあたり、諸問題等の対応に懸念
- ・鯖江市から提案
指導者がいるところにサポートで入ることは？
 - ⇒ それなら可能
 - ⇒ 鯖江市と福井大学との包括連携協定を活用
 - ・鯖江市は若手指導者の創出や指導者不足の解消にメリット
 - ・学生はカリキュラムの一貫として子どもたちと関わるができるメリット
- ・R8募集開始予定で具体内容を協議
(国) 総合的なガイドライン (大学)



指導者サポート募集！
みんなで地域クラブ活動を応援しよう

2026より
鯖江市内3中学校
休日指導サポート
1日3時間程度

鯖江市・鯖江市内総合型地域スポーツクラブでは休日の地域クラブ活動(中学生)にサポート指導として従事できる学生を募集しています。土・日のどちらか3時間程度、練習試合等は6〜7時間程度のサポート。報酬あり、保険あり。募集種目や報酬に関しては右記QRから詳細をご覧ください。

活動場所
さばえSC：鯖江中
鯖江北SC：中央中
東陽SC：東陽中

お問い合わせは
鯖江市教育委員会

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

工) 面的・広域的な取組

○ 鯖江市内

鯖江市にある中学校区の総合型地域スポーツクラブは、スポーツ安全保険を統一し、それぞれの活動だけでなく、合同練習にも対応できるようにした。

陸上では、陸上競技場を小中学生だけでなく、地元高校陸上部と一緒に活動できるようにし、時々ではあるが教え合い等の活動が出てくるようになった。

他の種目においては、平日とは違う他クラブ種目へのチャレンジ、他クラブ指導者の指導を受ける等様々な動きが出てくるようになった。

今後、文化関係にも様々な動きが出てくるよう準備していく予定である。

か) 参加費用負担の支援等

○ 新会費決定

クラブ組織再編委員会で鯖江市、学識経験者、中学校、クラブとそれぞれの意見を交え、令和8年からの会費を決めることができた。この委員会では、行政支援、会費運営、保護者負担等の様々な角度から協議することができ、持続可能な将来を見通した協議をそれぞれが担う立場で議論することができた。

き) 学校施設の活用等

○ スマートロック、校舎内シャッター設置（令和6年スポーツ庁・文化庁報告書）

- ・学校管理規則の見直しに着手し、規則改正ではなく、庁内での関係課対応で進めることとなり、休日の中学校施設は、運営団体が中心となり活動できる体制整備ができた。

●成果の評価

ア) 運営団体の整備

クラブ統合の協議は、令和8年から本格的に始まる。鯖江市は、前向きな協議ができるよう、サポートする予定。

イ) 指導者派遣、サポート

企業連携での活動が始まる時に、鯖江市・運営団体・（企業・大学）と三者協定を締結し、本格的に取り組む予定。

ウ) 関係団体との連携、オ) 内容の充実

公民館で様々な取組を実施することができ、希望者なし等の事案も出て、今後の取組について協議することができた。その中で、中学生の休日の生活変化を急激に求めるものではなく、小学校から進めることが大切だとの意見もあり、令和8年は小中学生の募集に切り替え、長い目で見た地域展開を試みることとなった。

エ) 面的・広域的な取組

市内参加の幅を広げることにより、様々な活動が可能となった。

カ) 参加費用負担の支援等

組織的な会議運営により、令和8年からの会費についての周知活動が様々な場面で行われるようになった。

●今後に向けて

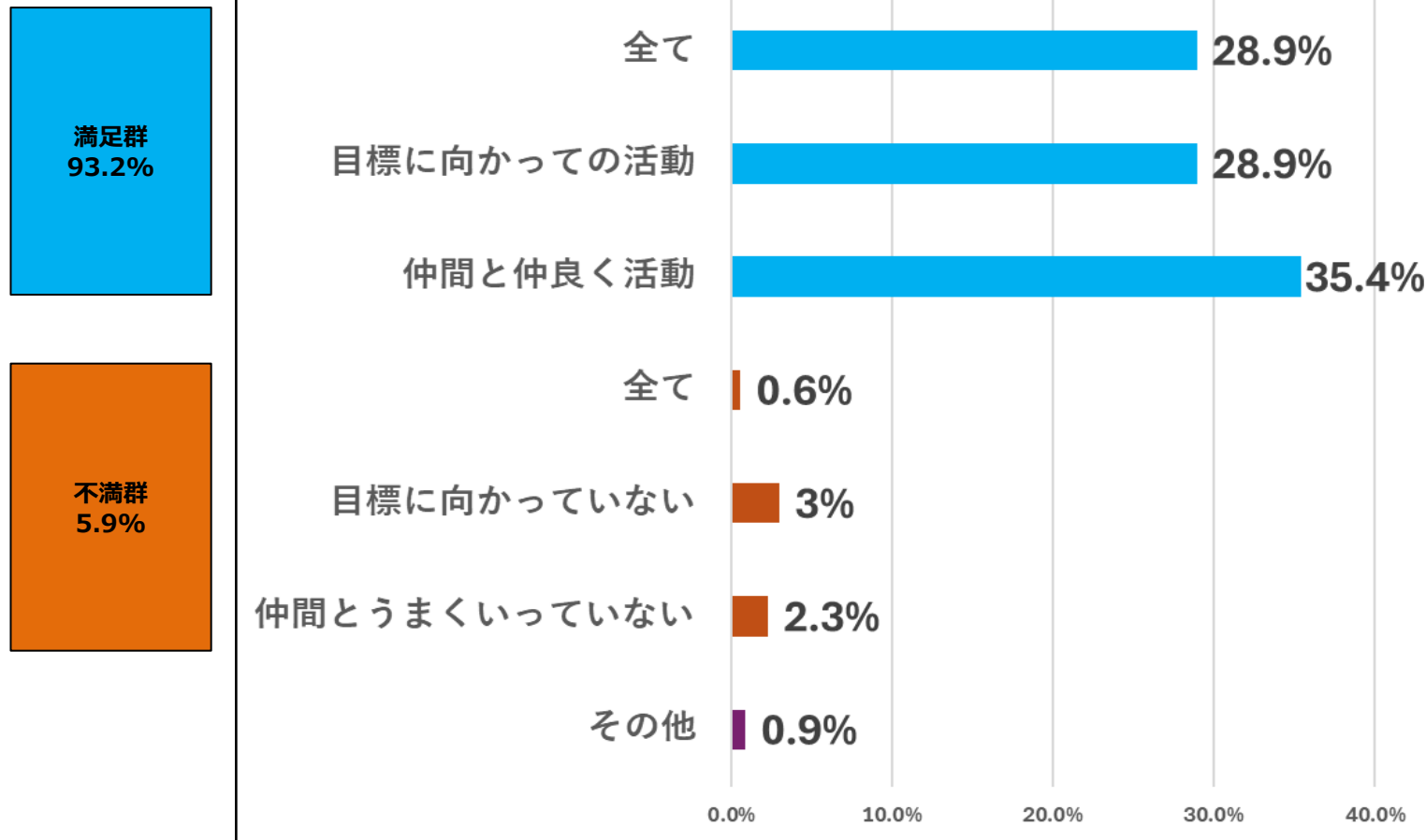
市民は、急激な変化や新たな活動に対し不安であったり、興味がないように感じる。「まちづくり」を進めるには、活動が他人事のように進めるのではなく、様々な方々との合意形成や参画が必要であり、徐々に周知を兼ねた活動を進めることを念頭に取組む予定である。

2.実証内容と成果⑤

アンケート結果

- 鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）
対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.平日の部活動について（中学生） 令和6年



2.実証内容と成果⑤

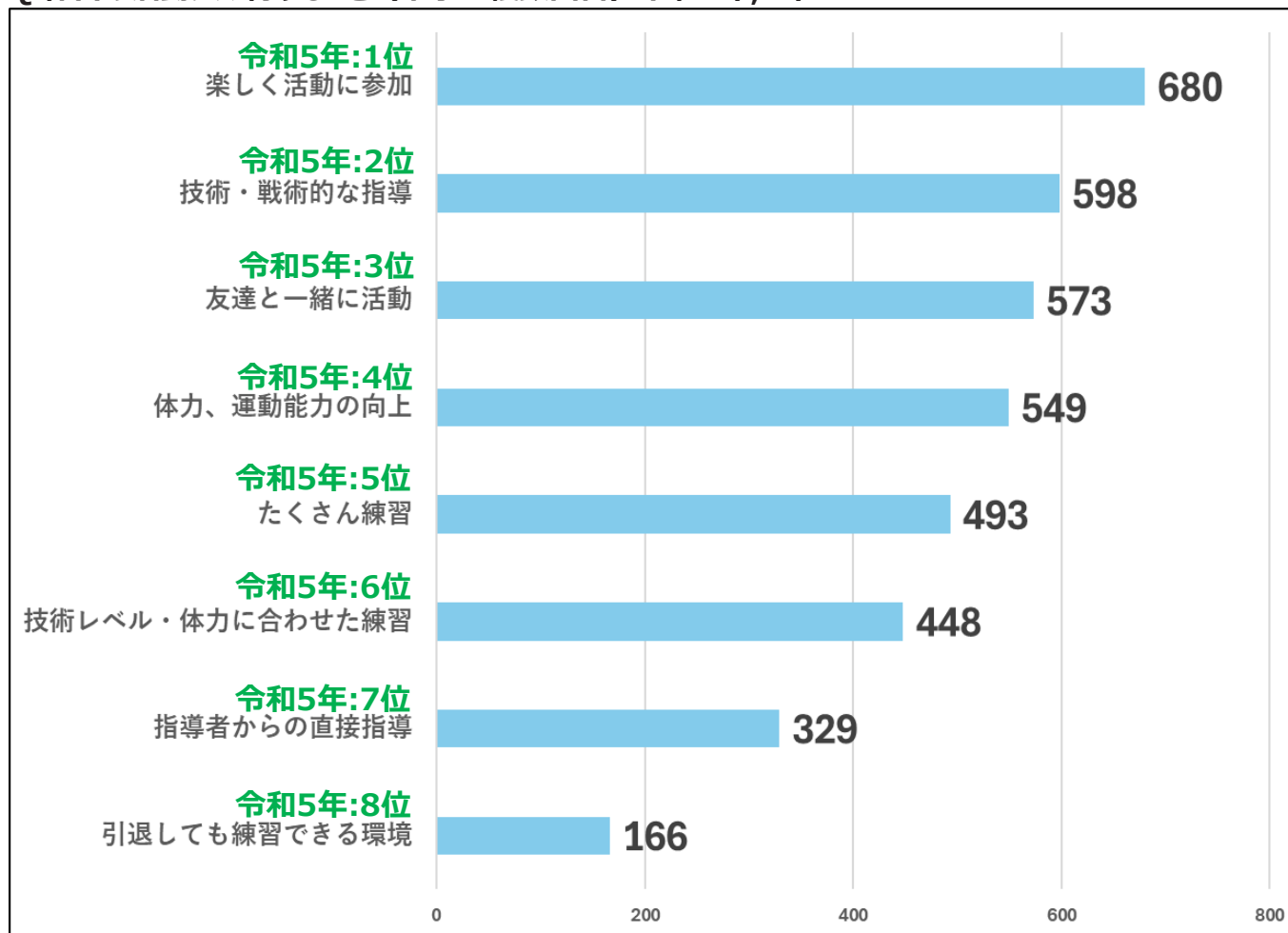
アンケート結果

●鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）

対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.休日の活動に期待すること（中学生複数回答） 令和5年,6年

単位：人



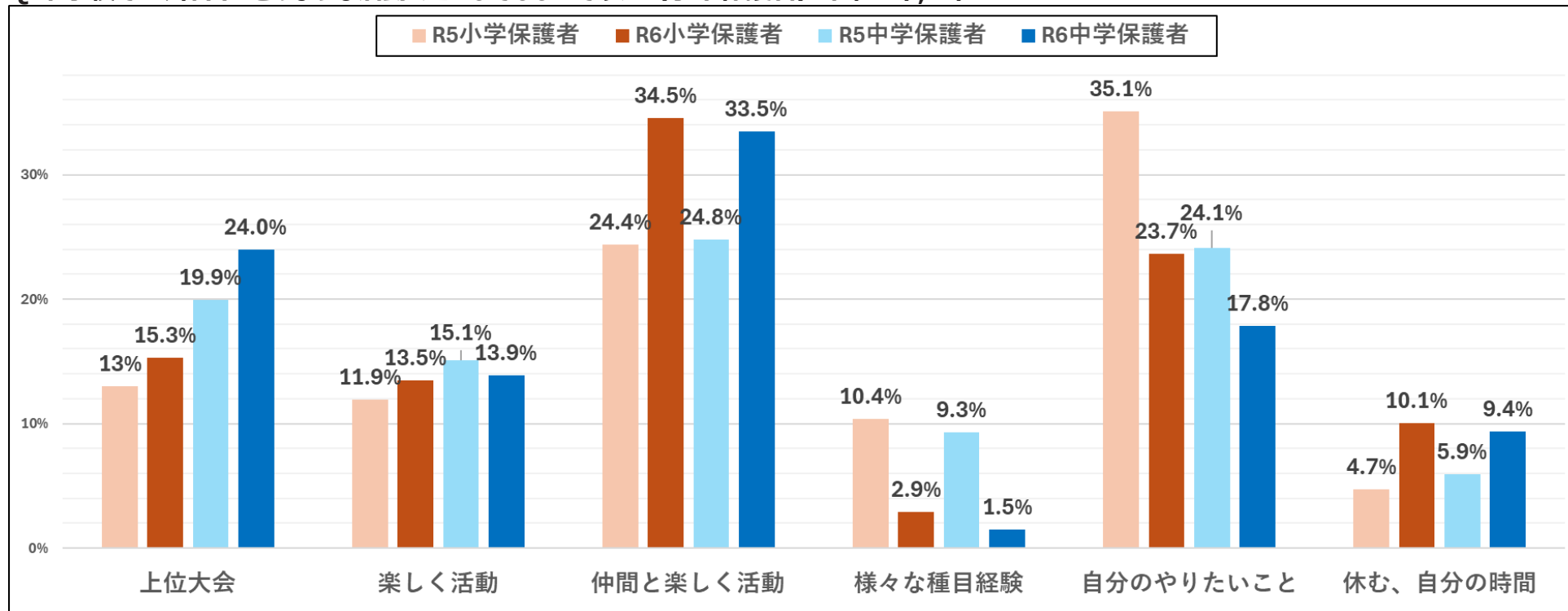
2.実証内容と成果⑤

アンケート結果

●鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）

対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.中学校では、休日はどのような活動・過ごしてほしいですか（小中保護者） 令和5年,6年



参加者/関係者の声

●参加者/関係者の声

中学生

専門的な指導は部活動以上に細かく、私の気が付かないことも指摘してくださいました。また、選手として大切な競技以外の面でも指導していただき、たくさん成長することができました。

中学生

基礎練習、個人練習等いろいろな練習ができるので充実した時間を過ごすことができありがたいと思っています。

指導者

少ない指導回数の中で子どもたちが何を教えてほしいのかを察する難しさはありますが、数十年前の先輩という身近な立場で子どもたちといっしょに楽しむことができ、充実した時間になっています。

指導者

陸上では、競技場を毎週占有で使用できることや専門的な指導者のもと、違うクラブの生徒同士が切磋琢磨しながら練習できることで生徒にとって非常に有意義な時間となっており、恵まれた環境であると感じます。また、小学生や高校生とも練習する機会もあり、縦のつながりもでき、系統的な練習ができています。

保護者

仲間と楽しんでほしいのはもちろんだが、勝つ喜びや負ける悔しさを仲間と共に経験したり学んだりしてほしい。中学校の今だから味わえるものだと思う。

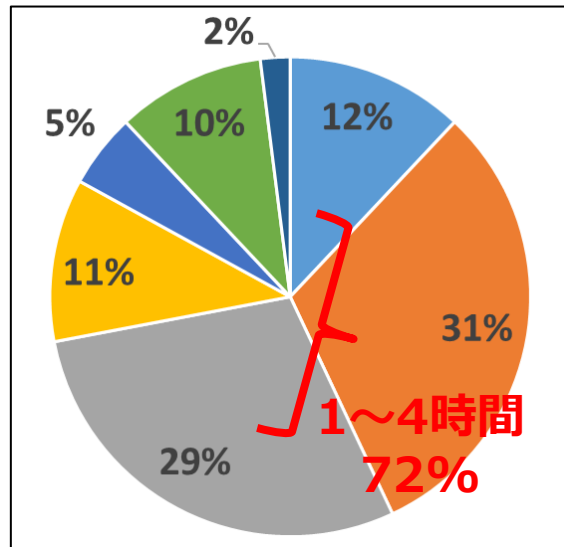
2.実証内容と成果⑥

アンケート結果・参加者/関係者の声

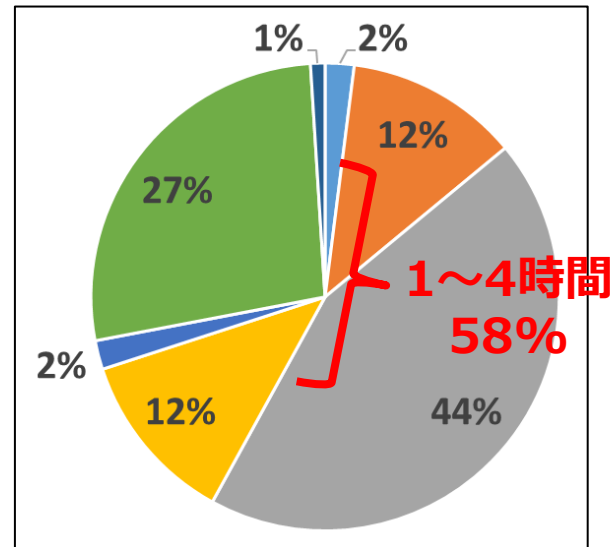
- 鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（令和4年～6年実施から抜粋）
対象：小学校4～6年生保護者、中学校1,2年生とその保護者

Q.休日の地域クラブ活動の活動時間はどのくらいがよいと思いますか（中学生・小中保護者） 令和5年

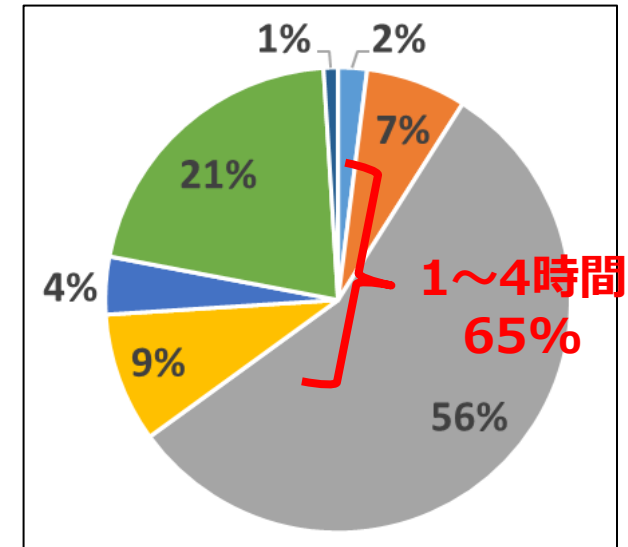
- 1時間程度 ■ 2時間程度 ■ 土日のどちらか半日
- 土日のどちらか1日間 ■ 休日は両日活動・平日に休養日設置
- それぞれの目標に沿った活動 ■ その他



中学生



小学生保護者



中学生保護者

●参加者/関係者の声

保護者・指導者

ガイドライン通りの練習時間では勝てない。もっと練習させる環境が必要ではないか。

他クラブでは、県外遠征にも行っている。同じステージの大会（中体連）で試合をするのは公平ではない。

指導者

無理のないペースでの活動の方が長続きするので良いと思う。

中学生

大会前等にはもっと練習したい。

2.実証内容と成果⑦

参考資料



三クラブ合同練習：陸上



鯖江北CSC：ソフトテニス



さばえSC：新体操



さばえSC：柔道

2.実証内容と成果



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年度	R3国モデル事業	R4国モデル事業	R5県補助事業	R6国実証事業	R7国実証事業	R8	R9	R10	R11	R12	R13
国	モデル期間		改革推進期間			改革実行期間（前期）			改革実行期間（後期）		
鯖江市	連携（主体は学校、地域と共に）				協働（主体は地域、学校と共に）		融合（地域主体）				
			併存期間（平日・休日活動の連携、指導者は協力了解の教職員に協力依頼）				休日完全実施・平日活動はできるところから				
会議等	検討会（中学校、SC）		協議会、検討会、三クラブ連絡協議会、中学校長会、（学校）地域クラブ担当者会								
					クラブ組織再編会議 （新会費・クラブ統合協議）						
方針		基本方針策定	中学校部活動および地域 クラブ活動在り方針		平日活動方針	認定クラブ方針					
アンケート		児童生徒、保護者、教職員アンケート調査					実態アンケート調査			実態アンケート調査	
運営	市教委運営	総括CD配置	地域CD・文化CD配置								
運営主体	運営主体 総合型地域SC に依頼	中学校区の総合型地域スポーツクラブ運営					仮認定	認定	JSPO認定クラブを目指す		
		三クラブ連絡協議会（クラブ運営（マネジメント）、実施主体実施・運営（指導者発掘・育成、リスクマネジメント）、広報（周知）、学校との連携 等									
		・文化関連を取組むことの合意		平日活動に関して協議・方針決定		クラブ事務局一本化	業務分担協議中	クラブ統合 R8～協議開始			
						民間企業との協議	平日・休日指導者派遣	希望者面談終了・他候補者模索中			
						大学との協議	指導者サポート事業	大学単位取得可否依頼・確認予定			
						危機対応・管理マニュアル作成	危機管理対応	運営団体・指導者手引き案協議中			
							アプリ活用	模索中（1月～3月）			
		スポーツ安全保険（三クラブ連絡協議会で加入）、クラブ団体保険加入									
実施主体	鯖中：剣道、柔道	鯖中：＋ホッケー、女バス、陸上	さばえSC：運動16種目、文化2種目		運動16種目、文化2種目	運動16種目、文化2種目		R8以降指導者確認・依頼 不足指導者：関係団体に依頼			
	中央：サッカー、バド	中央：＋剣道、女バス	鯖北CSC：運動17種目、文化2種目		運動16種目、文化2種目	運動15種目、文化2種目					
	東陽：男バス	東陽：＋女バス	東陽SC：運動12種目、文化1種目		運動11種目、文化1種目	運動10種目、文化1種目					
					公民館活動受け皿依頼 地域活動受け皿依頼	交流の場の開催		公民館・一般団体依頼中 NPOセンター依頼予定（障がい者関連含）			
			文化部門関連地域展開開始								
鯖江市	指導者研修会										
			小中学校スマートロック設置	段階的な運用	学校側対応準備期間		正式運用				
			中学校校舎内シャッター設置	段階的な運用			正式運用				
				「鯖江市運動・スポーツ推進計画」 推進委員会		中学校施設優先利用（規則改訂）					
				公認スポーツ指導者、文化指導者資格取得支援（スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会）							
			困窮家庭への支援（準要）								